

173  
2  
24

成城學校編輯

# 網那歷史綱要

貳

版權  
所有

東京

私立成城學校出版局  
藏版

成城學校  
出版局  
藏版

42  
142

綱要支那歴史卷ノ二目錄

- (一) 西漢ノ治亂興亡
- (二) 鴻門ノ會
- (三) 韓信大將ニ拜セラル
- (四) 董公漢王ニ説ク
- (五) 韓信背水ノ陣
- (六) 楚漢王ヲ榮陽ニ圍ム
- (七) 韓信濰水ノ陣
- (八) 武涉蒯徹韓信ニ説ク
- (九) 垓下ノ役
- (十) 田横ノ自刎
- (十一) 沛公關中ニ入ル
- (十二) 項羽自立シテ西楚ノ霸王ト爲ル
- (十三) 陳平漢ニ歸ス
- (十四) 唯水ノ戰
- (十五) 酈食其六國ノ後ヲ立ツルヲ説ク
- (十六) 漢楚廣武ニ軍ス
- (十七) 漢韓信ヲ立テ齊王ト爲ス
- (十八) 楚漢ト和ス
- (十九) 高祖南宮ニ置酒ス
- (二十) 季布ヲ拜シ丁公ヲ斬ル



- (廿一) 高祖都ヲ關中ニ奠ム
- (廿二) 張良留侯ニ封セラレ
- (廿三) 蕭何郅侯ニ封セラレ
- (廿四) 叔孫通朝議ヲ起ス
- (廿五) 韓信誅セラレ
- (廿六) 陸賈太中大夫ニ拜セラレ
- (廿七) 呂公商山ノ四皓ヲ招ク
- (廿八) 呂公相ヲ問フ
- (廿九) 呂公趙王及ヒ戚夫人ヲ殺ス
- (三十) 呂公諸呂ヲ王トス
- (卅一) 呂氏ノ亂
- (卅二) 周勃丞相ト爲ル
- (卅三) 張釋之廷尉ト爲ル
- (卅四) 淮南王ノ反
- (卅五) 賈誼ノ上疏
- (卅六) 文帝肉刑ヲ除ク
- (卅七) 文帝細柳ノ軍ヲ勞フ
- (卅八) 吳楚七國ノ反
- (卅九) 蒯仲舒ノ對策
- (四十) 公孫弘ノ對策
- (四十一) 巫蠱ノ獄
- (四十二) 輪臺ノ詔
- (四十三) 汲黯ノ嚴正
- (四十四) 東方朔ノ談諧

- (四十五) 霍公ノ畧傳
- (四十六) 蘇武匈奴ニ使ス
- (四十七) 上官桀父子廢立ヲ謀ル
- (四十八) 孝宣帝ノ即位
- (四十九) 路温舒ノ上書
- (五十) 龔遂勃海ヲ治ム
- (五十一) 趙廣漢京兆ヲ治ム
- (五十二) 尹翁歸扶風ヲ治ム
- (五十三) 魏相匈奴ヲ伐ツテ諫ム
- (五十四) 二疏ノ致仕
- (五十五) 趙充國ノ屯田
- (五十六) 魏相丙吉ノ相業
- (五十七) 韓延壽左馮翊ヲ治ム
- (五十八) 黃霸潁川ヲ治ム
- (五十九) 光祿勳楊惲ヲ殺ス
- (六十) 張敞京兆ヲ治ム
- (六十一) 于公ノ陰德
- (六十二) 官者恭顯蕭望之ヲ殺ス
- (六十三) 京房易ヲ學テ身ヲ亡ス
- (六十四) 朱雲ノ直諫
- (六十五) 王莽位ヲ篡フ
- (六十六) 楊雄ノ畧傳
- (六十七) 王莽ノ滅亡

東漢

- (一) 東漢ノ治亂興亡
- (二) 劉秀兵ヲ起ス
- (三) 昆陽ノ戰
- (四) 鄧禹策ヲ杖キ劉秀ニ歸ス
- (五) 劉秀王郎ヲ討ス
- (六) 劉秀位ニ即ク
- (七) 光武帝赤眉ノ賊ヲ平ク
- (八) 彭寵ノ反
- (九) 光武帝隴右ヲ平ク
- (十) 光武帝蜀ヲ平ク
- (十一) 竇融入朝ス
- (十二) 光武帝功臣ヲ全フシ群臣ヲ撫ス
- (十三) 馬援ノ畧傳
- (十四) 宋弘ノ正直
- (十五) 董宣ノ強項
- (十六) 光武帝ノ良吏
- (十七) 孝明帝ノ明察
- (十八) 班超西域ニ使ス
- (十九) 耿恭匈奴ヲ敗ル
- (二十) 毛義ノ孝
- (廿一) 班超ノ畧傳
- (廿二) 虞詡長歌及ヒ武都ヲ治ム

- (廿三) 黃憲ノ賢
- (廿四) 楊震ノ四知
- (廿五) 左雄ノ公直
- (廿六) 張綱車輪ヲ埋ム
- (廿七) 蘇章ノ能政
- (廿八) 梁冀ノ跋扈
- (廿九) 荀氏ノ八龍
- (三十) 崔寔ノ政論
- (卅一) 朱穆ノ剛直
- (卅二) 徐穉姜肱ノ畧傳
- (卅三) 郭泰ノ識鑑
- (卅四) 楊劭及ヒ李膺ノ聲望
- (卅五) 黨人ノ獄
- (卅六) 魏ノ曹操起ル
- (卅七) 袁紹宦官ヲ誅シ董卓廢立ヲ行フ
- (卅八) 吳ノ孫堅及ヒ孫策起ル
- (卅九) 王允董卓ヲ誅ス
- (四十) 蜀ノ劉備起ル
- (四十一) 劉備曹操ニ歸ス
- (四十二) 曹操呂布ヲ殺ス
- (四十三) 劉備劉表ニ歸ス
- (四十四) 劉備諸葛ヲ三顧ス
- (四十五) 赤壁ノ戰
- (四十六) 孫權荊州ヲ以テ劉備ニ借ス

綱要支那歴史卷ノ二目錄畢

綱要支那歴史卷ノ二

西漢ノ治亂興亡

若松 池田

編輯

漢ノ高帝秦ヲ亡シ楚ヲ仆シ天下ヲ有チ都ヲ關中ニ定  
 ヲ以テ天下ノ形勝ヲ占ム符ヲ剖キ功臣ヲ封シ秦ノ苛  
 法ニ懲リテ法律ヲ簡ニシ朝議ヲ制シ以テ君臣ノ禮ヲ  
 正シ軍法ヲ申テ章程ヲ定メ規模頗ル高遠ナリ七年匈  
 奴越ニ寇テ陳平ノ計ヲ用ヒテ之ヲ退ク十年陳豨反ス  
 十一年黥布反ス皆撃テ之レヲ平ラク高帝崩シ孝惠帝  
 立チ崩シテ子ナシ呂太后朝ニ臨ミ制ヲ稱シ諸呂ヲ立  
 テ王トナス太后崩シ諸呂終ヒニ亂ヲ爲ス孝文帝立テ

淮南ノ厲王反ヲ謀ル匈奴數々邊患ヲ爲ス然レ文帝  
既ニ亡秦ノ政ニ懲リ論議務メテ寬厚ニ在リ敦朴ヲ示  
シテ天下ノ先ト爲リ專ハラ徳ヲ以テ民ヲ化ス吏其官  
ヲ安ンシ民其業ヲ樂ミ畜積歳ニ増シ戸口滋々息ス禁  
罔疏闊ニシテ刑措ノ風アリ是ヲ以テ海内頗ル安寧ナ  
リキ孝景帝ノ時ニ至リ吳楚七國反ス撃テ之ヲ平ラク  
漢興リテヨリ繁苛ヲ掃除シ民ト休息ス文帝加フルニ  
恭儉ヲ以テス景帝ノ業ニ遵フニ至テ五六十載ノ間風  
ヲ移シ俗ヲ易ヘ黎民醇厚ニシテ國家大ニ治マリ都鄙  
廩庾皆滿ツ後ノ漢ノ治ヲ説クモノ文景ヲ以テ稱首ト

ナスト云フ孝武帝征和二年巫蠱ノ獄起リ皇后自殺シ  
太子自經ス武帝文景豐富ノ後子ヲ承ケ武事ヲ究極シ  
數々匈奴ヲ征シ漢ノ兵勢ヲ盡ス匈奴遠ク遁ル西域ニ  
通シ西南夷ニ通シ東ノ方朝鮮ヲ撃チ南ノ方粵ヲ撃チ  
軍旅歳トシテ興ラサル無シ内ハ土木ヲ事トシ侈靡ヲ  
極ム數々巡幸シテ祠祀ヲ崇ヒ封禪ヲ修ス國用給セス  
武功ノ爵級ヲ賣リ鹿皮ノ幣白金ヲ造ル均輸平準法ヲ  
作り利ヲ興シ以テ費ヲ佐ク鹽鐵官ヲ置キ緡錢舟車ヲ  
算シ天下蕭然タリ好ミテ酷吏ヲ尊用シ末年盜賊起ル  
乃チ輪臺ノ詔ヲ下シ深ク既往ノ悔メヲ述ヘ專ラ力ヲ

政治ニ用ヒ天下ノ賢材多ク寵用セララル惠帝ヨリ已ニ  
挾書ノ禁ヲ除キ文帝已ニ遊學ノ路ヲ廣ムト雖モ然レ  
非儒學未タ盡ク盛ナラス武帝ノ世ニ至リ董仲舒公孫  
弘兒寬弘安國等アリテ出ツ六經ヲ表章スルハ實ニ此  
ニ始マル文章モ亦帝ノ世ニ至テ始メテ盛ナリ人以テ  
三代ノ風アリト爲ス孝昭帝ノ時燕王且反ヲ謀ル上官  
桀帝ヲ廢シ燕王ヲ立テントス帝霍光ノ忠ヲ辨シテ確  
然動カス天下無事ナリ孝宣帝四年霍氏奢縱反ヲ謀ル  
其族ヲ夷ラク帝閭閻ヨリ起リ頗ル民間ノ疾苦ヲ知ル  
精ヲ勵マシ治ヲ爲ス樞機周密ニシテ品式備具ス刺史

守相ヲ拜スルルハ輒チ親ラ見聞ス以爲ラク太守ハ吏  
民ノ本ナリ數々變易スレハ則チ民安カラスト故ニ二  
千石治理ノ效アレハ輒チ璽書ヲ以テ勉勵シ秩ヲ増シ  
金ヲ賜フ公卿缺クレハ則チ諸口表スル所ヲ選ンテ次  
ヲ以テ之ヲ用フ漢世ノ良吏是ニ於テ盛ナリト爲ス賞  
ヲ信ニシ罰ヲ必ニシ名實ヲ綜核ス政事文學法理ノ士  
咸ク其能ヲ精フシ吏ハ其職ニ稱ヒ民ハ其業ヲ安ンス  
匈奴ノ衰亂ニ遭ヒ亡ヲ推シ存ヲ固フシ威ヲ北夷ニ信  
フ單于義ヲ慕ヒ稽首シテ藩ト稱ス功祖宗ニ光リ業後  
裔ニ垂ル中興ノ主ニシテ德ヲ高宗周宣ニ倅フスト謂

六  
ツ可シ然レモ弘恭石顯ヲ用ヒテ元帝ノ宦者ヲ信スル  
ヲ啓クハ禍ヲ後嗣ニ貽ス者ト謂ハサルヘカラス孝元  
帝儒術ヲ喜ヒ韋玄成匡衡ヲ相ト爲スト雖モ相業ナシ  
帝徒ラニ優游不斷ニシテ宦者恭顯威權ヲ擅マ、ニシ  
漢業是ニ於テ衰フ孝成帝酒色ニ荒ミ外戚王氏政ヲ專  
ハラニシ張禹薛宣翟方進相トナリ漢業愈々衰ヘタリ  
孝哀帝狼愎不明ニシテ嬖幸朝ニ盈ツ陵夷シテ孝平帝  
ニ至リ外戚王莽ノ毒弑スル所ト爲ル孺子嬰ニ至リ王  
莽終ニ位ヲ奪ヒ國ヲ新ト號ス是レヨリ諸國兵ヲ起シ  
テ莽ヲ討ス天下頗ル騷然タリ未タ幾ハクナラスシテ

漢ノ宗室劉秀兵ヲ起シ莽ヲ滅シ漢業ヲ恢復ス是ヲ東  
漢光武帝ト爲ス西漢天子トナルヲ十二世凡ソ二百十  
四年王莽ノ篡位ヲ并セテ二百三十年

沛公關中ニ入ル

沛ノ豐邑中陽里ノ人劉邦少シテ大度アリ家人ノ生産  
ヲ事トセス大ヒニ爲スアルヲ欲ス壯ナルニ及ヒ泗上  
ノ亭長ト爲リ嘗テ咸陽ニ繇役シ秦皇帝ヲ縱觀シテ曰  
ク嗟乎大丈夫當サニ此ノ如クナルベシト後チ秦政大  
ヒニ亂レ豪傑并ヒ起ルニ及ヒ劉邦縣ノ爲メニ徒ヲ驪  
山ニ送ル徒多ク道ヨリ亡ク劉邦自ラ度ル驪山ニ達ス



ル比ヒ盡ク之レヲ亡ハント豊西ニ至リ止リ飲ム夜乃  
チ送ル所ノ徒ヲ解縦シテ曰ク公等皆ナ去レ吾レ亦此  
レヨリ逝ラント徒中ノ壯士從フヲ願フモノ十餘人劉  
邦酒ヲ被ムリ夜澤中ニ徑ス大蛇アリ徑ニ當ル心竊カ  
ニ喜ヒ獨リ以テ自負ス諸々ノ從フ者日ニ益々畏服ス  
是ニ於テ兵ヲ沛ニ起シ以テ諸侯ノ師ニ應ス楚ノ懷王  
諸將ト約シ先ツ入テ關中ヲ定ムルモノハ之ニ王タラ  
ント當時秦ノ兵強シ諸將先ツ入ルヲ利スルナシ獨リ  
項羽秦ノ項梁ヲ殺スヲ怨ミ沛公ト先ツ入ラント願フ  
懷王ノ諸老將皆曰ク項羽ノ人ト爲リ慄悍猾賊ナリ獨

リ沛公ハ寬大ノ長者ナリ遣ル可シト乃チ沛公ヲ遣ル  
沛公秦ヲ攻メ大ヒニ秦ヲ破リ關ニ入り秦王子嬰ヲ降  
ス既ニ秦ヲ定メ還テ霸上ニ軍シ悉ク諸縣ノ父老豪傑  
ヲ召シ謂テ曰ク父老秦ノ苛法ヲ苦ムト久シ諸侯ト約  
シ先ツ關中ニ入ル者ハ之レニ王タラント吾レ當サニ  
關中ニ王タル可シ父老ト法ヲ三章ニ約セン人ヲ殺ス  
者ハ死セン人ヲ傷ケ及ヒ盜ヲ爲ス者ハ罪ニ抵サント  
餘ハ悉ク秦ノ苛法ヲ除去ス秦民大ヒニ悅服ス

鴻門ノ會

沛公劉邦楚ノ懷王ノ命ヲ受ケ先ツ關中ニ入ル項羽尋

テ諸侯ノ兵ヲ率ヒ關門ニ至ル關門閉チタリ大ヒニ怒  
リ之レヲ攻メ破リ進ンテ戲ニ至リ明旦沛公ヲ擊タン  
ト期ス羽カ兵四十萬アリ百萬ト號ス鴻門ニ陣ス沛公  
ノ兵十萬霸上ニ陣ス范增羽ニ説テ曰ク沛公山東ニ居  
ル時財ヲ貪リ色ヲ好ム今關ニ入り財物取ル所ロナク  
婦女幸スル所ロナシ此レ其志小ニアラス吾レ人ヲシ  
テ其氣ヲ望マシムルニ皆龍トナリ五采ヲ成ス此レ天  
子ノ氣ナリ急ニ擊テ失フ勿レト羽カ季父項伯素ヨリ  
沛公ノ臣張良ト善シ夜馳セテ沛公ノ陣ニ至リ良ニ告  
クルニ明旦攻撃ノ事ヲ以テシ與ニ俱ニ去ラントス良

曰ク臣沛公ニ從ヒ急アリ之レヲ亡クルハ不義ナリト  
入テ具サニ告ケ因テ伯ヲ要シ入テ沛公ヲ見セシメ卮  
酒ヲ奉ジ壽ヲ爲シ約シテ婚姻ヲ爲ス沛公伯ニ謂テ曰  
ク吾レ關ニ入り秋毫モ私スル所ナク吏民ヲ籍シ府庫  
ヲ封シ以テ項將軍ノ來ルヲ待ツ其關ヲ守ル所以ノモ  
ノハ他ノ盜ノ掠略ニ備フルナリ願クハ伯具サニ臣カ  
他心ナキヲ言ヘト伯許諾シテ曰ク旦日蚤ク自ラ來リ  
謝セサル可カラスト伯歸リ具サニ羽ニ告ケ且ツ曰ク  
沛公大功アリ之ヲ擊ツハ不義ナリ因テ善ク遇センニ  
ハ如カズト沛公旦々ニ百餘騎ヲ從ヘ羽ニ鴻門ニ見ユ

謝シテ曰ク臣將軍ト力ヲ戮ハセ而シテ秦ヲ攻ム將軍  
 ハ河北ニ戰ヒ臣ハ河南ニ戰フ意ハサリキ先ツ關ニ入  
 リ秦ヲ破リ復タ將軍ヲ此ニ見ントハ今ハ小人ノ言ア  
 リ將軍ト臣トナシテ隙アラシム羽ノ曰ク是レ沛公カ  
 左司馬曹無傷ノ言ナリト羽沛公ヲ留メ與ニ飲ス范增  
 數々羽ニ目シ佩フル所ノ玉玦ヲ舉クルモノ三タヒ羽  
 應セス増出テ、項莊ヲシテ入ラシメ壽ヲ爲シ劍ヲ以  
 テ舞ヒ因テ沛公ヲ擊タントス項伯亦タ劍ヲ拔キ起舞  
 シ身ヲ以テ沛公ヲ翼蔽ス張良出テ、事ノ急ヲ以テ樊  
 噲ニ告ケ入テ之レヲ救ハシム噲盾ヲ擁シ直チニ入り

目ヲ瞋ラシ羽ヲ視ル頭髮上リ指シ目皆盡ク裂ク羽曰  
 ク壯士ナリ之レニ卮酒ヲ賜ヘト則チ斗卮酒ヲ與フ之  
 レニ斃肩ヲ賜フ則チ生斃肩ナリ噲立飲シ劍ヲ拔キ肉  
 ナ切リ之レヲ啗フ羽カ曰ク能ク復タ飲マン乎噲カ曰  
 ク臣死スタモ猶ホ且ツ避ケス況ンヤ卮酒安ソ辭ス  
 ルニ足ランヤ沛公先ツ秦ヲ破リ咸陽ニ入ル勞苦功高  
 此ノ如シ未タ封爵ノ賞アラス而シテ將軍細人ノ説ヲ  
 聞キ有功ノ人ヲ誅セント欲ス此レ亡秦ノ續ノミ切ニ  
 將軍ノ爲メニ取ラサルナリ羽カ曰ク坐セヨ噲良ニ從  
 テ坐ス少頃シテ沛公廁ニ如キ噲ヲ招キ與ニ間行シテ

霸上ニ趨ル良留マリ羽ニ謝シテ曰ク沛公栢勺ニ勝ヘ  
 ス辭スル能ハス臣良ヲシテ白璧一雙ヲ奉シ再拜シテ  
 將軍ノ足下ニ獻シ玉斗一雙再拜シテ亞父ノ足下ニ奉  
 セシムト羽カ曰ク沛公安クニアル良カ曰ク將軍ノ之  
 レヲ督過スルニ意アリト聞キ身ヲ脱シテ獨リ去ル度  
 ルニ今已テニ軍ニ至ラン亞父劍ヲ拔キ玉斗ヲ撞破シ  
 テ曰ク唉豎子與ニ謀ルニ足ラス將軍ノ天下ヲ奪ハン  
 モノハ必ラス沛公ナラント

項羽自立シテ西楚ノ霸王ト爲ル

項羽兵ヲ引キテ西ノ方咸陽ヲ屠リ降王子嬰ヲ殺シ秦

ノ宮室ヲ燒ク火三月マテ絶ヘス始皇ノ冢ヲ掘リ寶貨  
 婦女ヲ收メテ東ス秦ノ民望ヲ失フ韓生ナルモノ羽ニ  
 説テ曰ク關中ハ山ヲ阻テ河ヲ帶ヒ四塞ノ地肥饒ナリ  
 都シテ以テ霸タルヘシト羽秦ノ殘破ヲ見テ且ツ東歸  
 ナ思フ曰ク富貴ニシテ故郷ニ歸ラサルハ繡ヲ衣テ夜  
 行スル如シト韓生曰ク人言フ楚人ハ沐猴ニシテ冠ス  
 ト果シテ然リト羽之レヲ聞キ韓生ヲ烹ル羽人ヲシテ  
 命ヲ懷王ニ致サシム王曰ク約ノ如クセヨト羽怒テ曰  
 ク懷王ハ我家ノ立ツル所ナリ功伐アルニアラス何  
 ソ專ラ約ヲ主サトルヲ得ンヤト乃チ陽尊シテ義帝ト

十六  
ナシ江南ニ徙シ天下ヲ分ツテ諸將ヲ王トシ羽自立シ  
テ西楚ノ霸王ト爲ル

韓信大將ニ拜セラレ

韓信ハ淮陰ノ人ナリ家貧フシテ行ヒナシ推擇セラレ  
テ吏タルヲ得ス又々生産ヲ治ムルアタハス常ニ人ニ  
從テ寄食ス人多ク之ヲ厭フ數々亭長ニ寄り食ス亭長  
ノ妻之ヲ患ヒ乃チ晨ニ炊キ蓐食ス食時信往ク爲メニ  
食ヲ具ヘス怒テ竟ニ絶チ去ル信城下ニ釣ス漂母アリ  
信ノ饑ユルヲ見信ニ飯スル數十日信喜テ曰ク吾必ス  
厚ク母ニ報ヒン母怒テ曰ク大丈夫自ラ食スル能ハス

十七  
吾レ王孫ヲ哀ンテ食ヲ進ムルノミ豈ニ報ヲ望マンヤ  
淮陰屠中ノ少年信ヲ侮ルモノアリ衆ニ因リ之ヲ辱シ  
メ曰ク汝チ長大ニシテ好シテ刀劍ヲ帶ルト雖モ中情  
怯ナルノミ能ク死ナハ我ヲ刺セ能ハザレバ我が胯下  
ヲ出テヨト信之ヲ熟視シテ胯下ヨリ蒲伏シテ出ツ一  
市ノ人皆信ノ怯ヲ笑フ項梁淮水ヲ渡ルニ及ヒ信劍ヲ  
杖イテ之レニ從フ名ヲ知ラルナシ梁敗レ項羽ニ屬シ  
郎中トナリ數々策ヲ以テ項羽ヲ干カス用ヒラレス亡  
ケテ漢ニ歸シ連敖ト爲ル法ニ坐シ斬ニ當ス信刑ニ臨  
ミ滕公ヲ見テ曰ク王天下ヲ就スヲ欲セサルカ何爲ソ

壯士ヲ斬ルト滕公其言ヲ奇トシ其貌ヲ壯トシ釋シテ  
 斬ラス與ニ語テ大ニ之ヲ説ヒ王ニ言フ王拜シテ治粟  
 都尉トナス數々蕭何ト語ル何モ亦タ之レヲ奇トス漢  
 王南鄭ニ至ル將士皆謳歌シテ歸ルヲ思フ多ク道ヨリ  
 亡ク信以爲ラク何巳テニ數々王ニ言フ王用ヒスト即  
 チ亡ケ去ル何自ラ之レヲ追フ人ノ曰ク丞相何亡クト  
 王怒リ左右ノ手ヲ失フカ如シ居ル一二日何來リ謁ス  
 王罵リ曰ク汝亡クルハ何ゾヤ何ノ曰ク韓信ヲ追フト  
 王ノ曰ク諸將亡クルモノ十ヲ以テ數フ公追フ所ナシ  
 信ヲ追フトハ詐リナラント何ノ曰ク諸將ハ得易キノ

ミ信ハ國士無雙ナリ王必ラス長ク漢中ニ王タラント  
 欲セハ信ヲ事トスル所ナシ必ラス天下ヲ爭ハント欲  
 セハ信ニ非スンハ與ニ事ヲ計ル可キモノナシ王ノ曰  
 ク吾モ亦タ東セント欲スルノミ安ソ能ク鬱々久シ  
 ク此ニ居ランヤ何ノ曰ク必ラス東セント欲セハ能ク  
 信ヲ用ヒヨ信即ハチ留マラン然ラスンハ信遂ニ亡ケ  
 ンノミ王ノ曰ク吾レ公ノ爲メニ以テ將トナサン何ノ  
 曰ク留マラサルナリ王ノ曰ク以テ大將トナサン何ノ  
 曰ク幸ヒ甚シ是ニ於テ王信ヲ召シ之ヲ拜セントス何  
 ノ曰ク王素ヨリ慢ニシテ禮ナシ大將ヲ拜スルコト小兒

ヲ呼フカ如シ此レ乃チ信ノ去ルユヘンナリ王乃チ良  
 日ヲ擇ヒ齋戒シ壇場ヲ設ケ禮ヲ具フ諸將皆喜ヒ人々  
 自ラ以テ大將ヲ得ルト爲ス拜スルニ至リテ乃チ韓信  
 ナリ一軍皆驚ク王遂ニ信ノ計ヲ用ヒ諸將ヲ部署シ蕭  
 何ヲ留メテ巴蜀ノ租ヲ收メ軍ノ糧食ヲ給セシメ信兵  
 ナ引キ故道ヨリ出テ、雍王章邯ヲ襲フ邯敗死ス塞王  
 司馬欣翟王董翳皆降り三秦平定ス

陳平漢ニ歸ス

陳平ハ陽武ノ人ナリ家貧ニシテ好テ書ヲ讀ム兄伯ト居  
 ル伯常ニ田ヲ耕シ平ヲ縱シテ遊學セシム平人ト爲リ

長大ニシテ美色ナリ人或ハ陳平ニ謂テ曰ク貧ナリ何  
 ナ食フテ而シテ肥大此ノ如キト其嫂平ノ生産ヲ視サ  
 ルヲ嫉ミ曰ク亦糠粃ヲ食フノミ叔有ル此ノ如キハ有  
 ルナキニ如カスト伯聞テ其婦ヲ逐フ平富人張負ノ女  
 孫ヲ娶リ齋用益饒カニシテ遊道日ニ益廣シ里中ノ社  
 ニ平宰タリ肉ヲ分ツ甚タ均シ父老曰ク善シ陳孺子ノ  
 宰タルヤ平曰ク嗟乎平ナシテ天下ニ宰タラシメハ亦  
 タ此ノ肉ノ如ケント時ニ陳涉魏ノ地ヲ定メ魏咎ヲ立  
 テ魏王ト爲ス平之レニ事フ用ヒラレス去テ項羽ニ事  
 フ罪ヲ得テ亡ク間行シテ河ヲ渡ル船人其美丈夫ヲ見

テ要中金玉寶器アルヘシト以ヒ將ニ平ヲ殺サントス  
 平恐レ乃チ衣ヲ解キ裸シテ船ヲ刺ス船人其有ルナキ  
 ナ知リテ乃チ止ム平乃チ魏無智ニ因リテ漢王ニ見ヘ  
 都尉參乘典護軍ニ拜セラル周勃等王ニ言フテ曰ク平  
 美ナリトイヘ冠玉ノ如シ其中未タ必ラスシモ有ラ  
 サルナリ臣聞ク平家ニ居テ其嫂ヲ盜ミ魏ニ事ヘ容レ  
 ラレス亡ケテ楚ニ歸ス又容レラレス亡ケテ漢ニ歸ス  
 今大王軍ヲ護セシム諸將ノ金ヲ受ク願クハ王ノ之ヲ  
 察センコトヲ漢王之ヲ疑ヒ魏無智ヲ護ム無智ノ曰ク臣  
 ノ言フ所ハ能ナリ大王ノ問フ所ハ行ヒナリ今尾生孝

己ノ行ヒ有ルモ成敗ノ數ニ益無クンハ大王何ノ暇ア  
 ツテ之ヲ用ヒンヤト王平ヲ護軍中尉ト爲シ盡ク諸將  
 ナ護セシム諸將乃チ敢テ復タ言ハス

董公漢王ニ説ク

漢王洛陽ニ至ル新城ノ三老董公遮キリ説キテ曰ク德  
 ニ順フモノハ昌ヘ德ニ逆フモノハ亡フ兵出ルニ名無  
 シ事故ニ成ラス其賊タルヲ明サハ敵乃チ服ス可シ項  
 羽無道ニシテ其主ヲ弑セリ天下ノ賊ナリ夫レ仁ハ勇  
 ナ以テセス義ハ力ヲ以テセス大王宜シク三軍ノ衆ヲ  
 率非テ之レカ爲メニ素服シ以テ諸侯ニ告ケテ之ヲ伐



ツヘシト是ニ於テ漢王義帝ノ爲メニ喪ヲ發シ諸侯ニ告ケテ曰ク天下共ニ義帝ヲ立ツ今項羽之レヲ放弒ス寡人悉ク關中ノ兵ヲ發シ三河ノ士ヲ收メ南江漢ニ浮ヒテ下リ願クハ諸侯王ニ從フテ楚ノ義帝ヲ弒スルモノヲ擊タント

睢水ノ戰

漢王五諸侯ノ兵五十六万ヲ率ヒ楚ヲ伐テ彭城ニ入ル其實貨美人ヲ收メ置酒シテ高會ス項羽方サニ齊ヲ擊ツ之レヲ聞キ自ラ精兵三萬ヲ率ヒテ還リ漢兵ヲ擊チ大ニ漢軍ヲ睢水ノ上リニ破ル死スルモノ二十萬人水

之カ爲メニ流レズ漢王ヲ圍ム三匝會マ大風西北ヨリ起リ木ヲ折リ屋ヲ發キ砂石ヲ揚ケテ晝晦シ王乃チ數十騎ト遁ル、ヲ得タリ審食其ナルモノ太公ト呂氏トニ從ヒ間行ス楚軍ニ遇フテ獲ラル楚常ニ軍中ニ置キテ質ト爲ス漢王滎陽ニ至ル諸敗軍皆會ス蕭何モ亦關中ノ老弱ヲ發シテ悉ク滎陽ニ詣ラシム漢軍復大ニ振

韓信背水ノ陣

漢ノ三年韓信張耳東ノ方井陘ヲ下リ趙ヲ擊タントス趙王歇及ヒ成安君陳餘之ヲ聞キ兵ヲ井陘口ニ聚メ之

レヲ防ク李左車餘ニ謂テ曰ク井陘ノ道車軌ヲ方フル  
 ナ得ス騎列ヲ成スヲ得ス其勢糧食必ラス後ニアラン  
 願クハ奇兵ヲ得テ間道ヨリ其輜重ヲ絶タン足下溝ヲ  
 深クシ壘ヲ高クシ與ニ戰フ勿レ彼前ンテ鬪フヲ得ス  
 退テ還ルヲ得ス野ニ掠ムル所ナク十日ナラスシテ兩  
 將ノ頭廳下ニ致スヘシト餘ハ儒者ナリ自ラ稱シテ義  
 兵トナシ奇計ヲ用ヒス信間ヲ遣リ之レヲ知ル大ヒニ  
 喜ヒ乃チ敢テ下リ未タ井陘口ニ至ラサル三十里ニシ  
 テ止マル夜半輕騎二千人ヲ傳發シ人々赤幟ヲ持チ間  
 道ヨリ趙ノ軍ヲ望マシム戒メテ曰ク趙我カ走ルヲ見

ハ必ス城ヲ空シテ我レヲ逐ハン若チカ輩疾ク趙壁ニ  
 入り趙幟ヲ拔キ漢ノ赤幟ヲ立テヨト乃チ萬人ヲシテ  
 先ツ水ヲ背ニシテ陣セシム平旦大將ノ旗鼓ヲ立テ鼓  
 行シテ井陘口ヲ出ツ趙兵壁ヲ開キテ之ヲ擊ツ戰フ  
 良々久シ信耳伴ツテ旗鼓ヲ棄テ水上ノ軍ニ走ル趙果  
 シテ壁ヲ空フシテ出テ之レヲ逐フ水上ノ軍皆チ殊死  
 シテ戰フ趙軍已ニ信等ヲ失ヒ壁ニ歸ル赤幟ヲ見テ大  
 ヒニ驚キ遂ヒニ亂レテ遁レ走ル漢軍夾擊シ大ヒニ之  
 レヲ破リ陳餘ヲ斬リ趙歇ヲ擒ニス諸將皆チ戰捷ヲ賀  
 ス因テ問フテ曰ク兵法ニ山陵ヲ右ニ倍キ水澤ヲ前左

ニスト今水ヲ背ニシテ勝ツハ何ソヤ信曰ク兵法ニ言  
ハスヤ之レヲ死地ニ陷レテ後チ生キ之レヲ亡地ニ置  
キテ後チ存スト諸將大ヒニ服ス

酈食其六國ノ後ヲ立ツルヲ説ク

酈食其漢王ニ説ク六國ノ後ヲ立テヨト王ノ曰ク趣カ  
ニ印ヲ刻セヨト張良來リ謁ス王方サニ食セリ具サニ  
良ニ告ク良曰ク請フ前箸ヲ借り大王ノ爲メニ之レヲ  
籌ラント遂ニ八難ヲ發ス其七ニ曰ク天下ノ遊士親戚  
ヲ離レ墳墓ヲ棄テ大王ニ從テ遊フモノハ徒ニ尺寸ノ  
地ヲ欲望スレハナリ今復タ六國ノ後ヲ立テハ遊士各

歸リテ其主ニ事ヘン大王誰ト共ニ天下ヲ取ランヤ且  
ツ楚ヨリ惟レ強キハナシ六國復タ撓ンテ之レニ從ハ  
ハ大王焉ンソ得テ之ヲ臣トセンヤ誠ニ客ノ謀ヲ用ヒ  
ハ大事去ラント漢王食ヲ輟メ哺ヲ吐キ罵リテ曰ク豎  
儒幾ント乃公ノ事ヲ敗ラントスト趣カニ印ヲ銷サシ  
ム

楚漢王ヲ滎陽ニ圍ム

楚漢王ヲ滎陽ニ圍ム漢王陳平ニ謂ツテ曰ク天下紛々  
タリ何レノ時ニカ定ランヤ平曰ク項王ノ骨鯁ノ臣ハ  
亞父鍾離昧ノ屬數人ニ過キサルノミ大王誠ニ能ク數

萬金ヲ捐テ反間ヲ行フテ以テ其心ヲ疑ハシメハ項王  
 ノ人ト爲リ忌ンテ讒ヲ信ス必ラス内相ヒ誅セン漢因  
 テ之ヲ攻メハ楚ヲ破ラント必セリト王平ニ黄金四萬  
 斤ヲ與ヘ其爲ス所ニ任セ其出入ヲ問ハス平多少反間  
 ナ楚軍ニ縱ツテ曰ク諸將鍾離昧等漢ト一トナリ以テ  
 項氏ヲ滅シ分テ其地ニ王タラント欲スト羽果シテ昧  
 等ヲ疑フ使ヲシテ漢ニ至ラシム漢王太牢ノ具ヲ爲シ  
 擧ケ進メ楚ノ使ヲ見ル即チ佯リ驚テ曰ク吾レ亞父ノ  
 使ト以爲ヘリ乃チ項王ノ使ナリト復タ持シ去リ更ニ  
 惡草具ヲ以テ楚ノ使者ニ進ム楚ノ使歸リ具ニ以テ羽

ニ報ス羽大ニ亞父ヲ疑フ亞父急ニ滎陽ヲ攻メ下サン  
 ト欲ス羽聽カス亞父乃チ怒リテ曰ク天下ノ事大ヒニ  
 定マル君王自ラ之ヲ爲セ願クハ骸骨ヲ賜ハリ卒伍ニ  
 歸ラント歸リテ未タ彭城ニ至ラス疽背ニ發シテ死ス  
 楚ノ漢王ヲ圍ム益急ナリ紀信曰ク事急ナリ請フ楚ヲ  
 誑カント乃チ漢王ノ車ニ乗シ東門ヨリ出テ曰ク食盡  
 キテ漢王出テ降ルト楚人皆城東ニ之イテ之ヲ觀ル漢  
 王乃チ西門ヨリ出テ去ルヲ得タリ羽怒テ紀信ヲ燒殺  
 ス

漢楚廣武ニ軍ス

漢ノ四年漢楚俱ニ廣武ニ軍ス相ヒ守ル數月此ノ時ニ  
 當リ彭越數々反シ楚ノ糧食ヲ絶ツ項羽之ヲ患ヒ乃チ  
 高祖ヲ爲リ太公ヲ其上ニ置キ漢王ニ告ケテ曰ク今急  
 ニ下ラサレハ吾レ太公ヲ烹ント漢王曰ク吾レ汝ト俱  
 ニ北面シテ懷王ニ事ヘ約シテ兄弟タリ吾カ翁ハ即チ  
 汝ノ翁ナリ必ラス汝ノ翁ヲ烹ント欲セハ幸ヒニ我レ  
 ニ一杯ノ羹ヲ分テト羽怒リ之ヲ殺サントス項伯曰ク  
 天下ノ事未タ知ル可カラス且ツ天下ヲ爲ムルモノハ  
 家ヲ顧ミス之ヲ殺ストイヘ益ナシ祗ニ禍ヲ益サン  
 ノミト羽之レニ從フ羽漢王ニ謂テ曰ク天下恟々タリ

徒ニ吾兩人ヲ以テノ故ノミ願クハ王ト挑戰シ雌雄ヲ  
 決セント漢王笑フテ曰ク吾レ寧ロ智ヲ闘ハシメン力  
 ヲ闘ハシメスト因テ羽ノ十罪ヲ數フ羽大ヒニ怒リ弩  
 ヲ伏セ王ヲ射テ其胸ヲ傷ツク

韓信瀕水ノ陣

漢ノ四年酈食其漢ノ爲メニ齊王ニ説テ之レヲ下ス韓  
 信蒯徹ノ言ヲ聽キ襲テ齊ヲ破ル齊王食其ノ欺クヲ怒  
 リ食其ヲ烹テ而シテ走ル楚齊ノ破ル、ヲ聞キ龍且ヲ  
 シテ齊ヲ救ハシム龍且カ曰ク韓信ハ與ミシ易キノミ  
 漂母ニ寄食シ身ヲ資クルノ策ナク、辱ヲ胯下ニ受ケ人

ヲ兼ヌルノ勇ナシ畏ル、ニ足ラスト進テ信ト濰水ヲ  
夾テ陣ス信夜人ヲシテ沙ヲ壅ニシ水ノ上流ヲ壅カシ  
ム且タニ渡テ龍且ヲ撃チ佯リ敗レテ還リ走ル且之レ  
ヲ追フ信水ヲ決セシム且ノ軍大半渡ルヲ得ス急ニ撃  
テ且ヲ殺ス追フテ城陽ニ至リ齊王廣ヲ虜ニス田横遂  
ニ自立シテ齊王ト爲ル灌嬰撃テ之ヲ走ラス盡ク齊ノ  
地ヲ定ム

漢韓信ヲ立テ齊王ト爲ス

韓信已ニ齊ヲ破リ人ヲシテ漢王ニ言ハシメテ曰ク齊  
ハ僞詐多變反覆ノ國ナリ請フ假王ト爲テ以テ之レヲ

鎮メント漢王大ヒニ怒リ罵テ曰ク吾レ此ニ困ム且暮  
汝ノ來ルヲ望ム乃チ自立スルカ張良陳平足ヲ躡ミ耳  
ニ附テ語テ曰ク漢方サニ利アラス寧ンソ能ク信ノ自  
ラ王タルヲ禁センヤ因テ之レヲ立テ、自ラ守ヲ爲サ  
シムルニ如カス然ラスンハ變生セント王悟ル復タ罵  
テ曰ク大丈夫諸侯ヲ定メハ即チ眞王タランノミ何ソ  
假ヲ以テ爲サント印ヲ遣リ信ヲ立テ、齊王ト爲ス  
武涉蒯徹韓信ニ説ク  
項羽龍且カ死スルヲ聞キ大ヒニ懼レ武涉ヲシテ信ニ  
説カシメ與ニ連和シテ天下ヲ三分セント欲ス信之レ

ヲ謝シテ曰ク漢王我レニ上將軍ノ印ヲ授ケ我レニ數  
 萬ノ衆ヲ與ヘ衣ヲ解テ我レニ衣セ食ヲ推シテ我レニ  
 食ハシム事聽カレ謀用ヒラル我レ之レニ倍カハ不祥  
 ナリ死スト雖モ易ヘス幸ヒニ信カ爲メニ項王ニ謝セ  
 ト武涉已ニ去リ蒯徹モ亦タ信ニ説テ曰ク楚漢分レ争  
 ヒ智勇俱ニ苦シム兩主ノ命ハ足下ニ懸レリ兩ナカラ  
 利シテ俱ニ之ヲ存スルニ若クナシ天下ヲ三分ニシテ  
 鼎足シテ居ル其勢ヒ敢テ先ツ動クナシ足下強齊ニ據  
 リ燕趙ヲ從カヘ民ノ欲スルニ因リ西郷シテ百姓ノ爲  
 メニ命ヲ請ハ、即チ天下響應セント信カ曰ク漢王我

レニ遇スル甚厚シ吾レ豈ニ以テ利ニ嚮フテ義ニ倍ク  
 可ケンヤト數日ニシテ徹復タ説テ曰ク夫レ功ハ成リ  
 難クシテ敗レ易シ時ハ得難クシテ失ヒ易シ時カ時カ  
 再ヒ來スト信猶豫シテ漢ニ倍クニ忍ヒス遂ニ徹ニ謝  
 ス徹因テ去リ詐リ狂シテ巫ト爲ル

楚漢ト和ス

漢ノ四年項羽助ケ少ナク食盡ク漢陸賈ヲシテ羽ニ説  
 キ太公ヲ請ハシム聽カス王又侯公ヲシテ往キ説カシ  
 ム羽乃チ漢ト約シ天下ヲ中分ニシ鴻溝以西ヲ漢ト爲  
 シ以東ヲ楚ト爲シ太公呂公ヲ歸シ兵ヲ解キテ東ニ歸

ル漢王モ亦西ニ歸ラント欲ス張良陳平説テ曰ク漢天下ノ大半ヲ有モツ而シテ諸侯皆之ニ附ク楚ノ兵罷レテ食盡ク此レ天楚ヲ亡スノ時ナリ機ニ因リテ之ヲ取ルニ如カス今釋シテ撃タサレハ此レ所謂ル虎ヲ養フテ自ラ患ヒヲ遺スモノナリト漢王之レニ從フ

## 垓下ノ役

漢ノ五年王項羽ヲ追ヒ固陵ニ至ル韓信彭越期シテ會セス乃チ張良ノ議ヲ聽キ楚梁ノ地ヲ以テ二人ニ許ス二人皆兵ヲ引キ來ル黥布モ亦タ會ス羽垓下ニ至ル兵少ク食盡ク信等之レニ乘ス羽敗レテ壁ニ入ル之レヲ

圍ムコト數重羽夜漢軍ノ四面皆楚歌スルヲ聞キ大ヒニ驚テ曰ク漢皆已ニ楚ヲ得タルカ何ソ楚人ノ多キヤ起テ帳中ニ訣飲ス虞美人ニ命シ起テ舞ハシメ悲歌慷慨泣數行下ル其歌ニ曰ク力山ヲ拔キ兮氣ハ世ヲ蓋フ時利アラス兮驪逝カス驪ノ逝カサル兮奈何トモス可シ虞兮虞兮若チヲ奈何セント左右皆ナ泣キ敢テ仰キ視ル莫シ羽乃ハチ夜八百騎ヲ從カヘ圍ヲ潰シ南ニ出テ淮ヲ渡ラントシ迷テ道ヲ失ヒ大澤中ニ陷ル漢兵追及ス羽東城ニ至ル餘兵僅カニ二十八騎アリ羽其騎ニ謂テ曰ク吾レ兵ヲ起シテヨリ八歳七十餘戰未タ嘗テ



敗レス今卒ニ此ニ困ム此レ天ノ我レヲ亡スナリ戦ノ  
 罪ニアラス今日固ヨリ死ヲ決セリ願クハ諸君ノ爲メ  
 ニ決戦シ必ラス圍ヲ潰シ將ヲ斬リ諸君ヲシテ之レヲ  
 知ラシメント皆其言ノ如クス是ニ於テ東ノ方烏江ヲ  
 渡ラントス亭長船ヲ艤シ待テ曰ク江東小ト雖モ亦々  
 以テ王タルニ足ル願クハ急ニ渡レト羽曰ク籍嚮キニ  
 江東ノ子弟八千人ト江ヲ渡テ西ス今一人ノ還ルモノ  
 ナシ佞令ヒ江東ノ父兄隣ンテ我レヲ王トスルトモ我  
 レ何ノ面目アリテ復々見ヘン獨リ心ニ愧チサランヤ  
 ト遂ニ勿テ死ス楚ノ地悉ク定ル獨リ魯ノミ下ラス王

之レヲ屠ラント欲シ城下ニ至ル猶ホ絃誦ノ聲ヲ聞ク  
 其ノ禮義ヲ守ルノ國ニシテ主ノ爲メニ節ヲ守ルト爲  
 シ羽ノ頭ヲ以テ之ニ示ス乃チ降ル王還ル馳セテ齊王  
 信ノ壁ニ入り其軍ヲ奪ヒ更ラニ信ヲ立テ楚王ト爲シ  
 彭越ヲ梁王ト爲ス漢王皇帝ノ位ニ卽ク

高祖南宮ニ置酒ス

漢ノ高祖洛陽ノ南宮ニ置酒ス高祖曰ク列侯諸將皆言  
 ヘ吾カ天下ヲ得ルユヘンノモノハ何ソ項氏ノ天下ヲ  
 失フユヘンノモノハ何ソト高起王陵對ヘテ曰ク陛下  
 ハ慢ニシテ人ヲ侮ル項羽ハ仁ニシテ人ヲ愛ス然レモ

陛下ハ人ヲシテ城ヲ攻メ地ヲ畧セシメ降下スル所ノ  
 モノハ因テ之ニ與ヘ天下ト利ヲ同フス項羽ハ賢ヲ妬  
 ミ能ヲ嫉ミ功アルモノハ之レヲ害シ賢者ハ之レヲ疑  
 フ戦ヒ勝ツモ人ニ功ヲ與ヘス地ヲ得ルモ人ニ利ヲ與  
 ヘス此レ天下ヲ失フユヘンナリト高祖曰ク公ハ其一  
 ヲ知リテ未タ其二ヲ知ラス夫レ籌ヲ帷幄ノ中ニ運ラ  
 シ勝ヲ千里ノ外ニ決スルハ吾レ子房ニ如カス國家ヲ  
 鎮メ百姓ヲ撫シ餽饌ヲ給シ糧道ヲ絶タサルハ吾レ蕭  
 何ニ如カス百萬ノ兵ヲ連テ戰ヘハ必ラス勝テ攻ムレ  
 ハ必ス取ルハ吾レ韓信ニ如カス此ノ三人ノモノハ皆

人傑ナリ吾能ク之ヲ用ユ此レ吾カ天下ヲ取ルユヘン  
 ナリ項羽ハ一ノ范增アレ共而モ之レヲ用ルアタハス  
 此レ其ノ我カ爲メニ擒ニセラル、ユヘンナリト群臣  
 皆悅服ス

## 田横ノ自剄

韓信龍且ヲ破殺シ齊王廣ヲ虜ニス灌嬰又齊ノ守相田  
 光ヲ追獲ス齊ノ相田横博陽ニ在リ齊王ノ死ヲ聞キ自  
 立シテ齊王ト爲リ還リテ灌嬰ヲ擊ツ嬰之ヲ瀛下ニ敗  
 ル田横亡ケテ梁ニ走ル漢王位ニ即キ彭越ヲ以テ梁王  
 ト爲ス田横誅ヲ懼レ其徒屬五百餘人ト海ニ入り島中

二居ル高帝之ヲ聞キ以爲ラク田横兄弟本ト齊ヲ定ム  
 齊ノ賢者多ク之レニ附ケリ今海中ニ在リ收メサレハ  
 後チ恐ラクハ亂ヲ爲サント乃チ使ヲシテ田横ノ罪ヲ  
 赦シ之ヲ召サシム曰ク横來レ大ナルモノハ王トセン  
 小ナルモノハ侯トセン來ラスンハ且ツニ兵ヲ擧ケ誅  
 ナ加ヘントスト田横乃チ其客二人ト傳ニ乗シ洛陽ニ  
 詣リ尸郷ノ廐置ニ至ル横使者ニ謝シテ曰ク人臣天子  
 ニ見ユル當ニ洗沐スヘシト此ニ止留ス其客ニ謂フテ  
 曰ク横始メ漢王ト俱ニ南面シテ孤ト稱ス今漢王ハ天  
 子ト爲リ而テ横ハ乃チ亡虜タリ其耻已テニ甚タシト

遂ニ自剄ス二客其頭ヲ奉シ使者ニ從ヒ馳セテ之レヲ  
 帝ニ奏ス帝曰ク嗟乎以エアルナリ夫レ布衣ヨリ起リ  
 兄弟三人更々王タリ豈ニ賢ナラスヤト之レカ爲メニ  
 流涕シ其二客ヲ拜シテ都尉ト爲シ王者ノ禮ヲ以テ田  
 横ヲ葬ル既ニシテ二客其冢旁ヲ穿チ自刎シテ之レニ  
 從フ五百人島中ニ在ルモノ之ヲ聞キ亦々皆自殺セリ  
 季布ヲ拜シ丁公ヲ斬ル  
 季布ハ楚人ナリ項羽ノ將トナリ數々漢ノ高帝ヲ窘ム  
 羽滅スルニ及ヒ帝千金ヲ以テ布ヲ購求ス敢テ舍匿ス  
 ルモノハ三族ヲ罪セント布濮陽ノ因氏ニ匿ル因氏曰

ク漢將軍ヲ購フ急ナリ將軍能ク臣ニ聽カハ臣敢テ計  
 ナ献セン即シ能ハスンハ自到セヨト布之レヲ許ス乃  
 チ布ヲ髡削シ褐衣ヲ衣セ廣柳車中ニ置キ魯ノ朱家ノ  
 所ニ往キ之レヲ賣ル朱家心ニ其ノ布ナルヲ知リ洛陽  
 ニ往キ滕公ニ見ヘテ曰ク季布何ノ罪ニシテ而テ之レ  
 ナ求ムル急ナルヤ臣各々其主ノ爲メニスルノミ布ノ  
 賢ヲ以テ漢之ヲ求ムル急ナレハ北ノ方胡ニ走ラスン  
 ハ南ノ方越ニ走ン此レ壯士ヲ棄テ、敵國ヲ資ルナリ  
 ト滕公帝ニ言ス乃チ召シテ郎中ニ拜ス其母弟丁公ナ  
 ルモノアリ亦々項羽ノ將トナリ帝ヲ彭城ノ西ニ寤ム

短兵ヲ以テ接ス帝甚々急ナリ顧ミテ丁公ニ謂ツテ曰  
 ク兩賢豈ニ相厄センヤト丁公乃チ引キ還ル帝ノ位ニ  
 即クニ及ンテ謁見ス帝以テ軍中ニ徇ヘテ曰ク丁公人  
 臣ト爲リ不忠項王ヲシテ天下ヲ失ハシムト遂ニ之ヲ  
 斬リ曰ク後ノ人臣タルモノヲシテ丁公ニ倣フナカラ  
 シムト

高祖都ヲ關中ニ奠ム

齊人婁敬ナルモノアリ漢ノ五年隴西ニ戍タリ洛陽ヲ  
 過ク輓輅ヲ脱シ羊裘ヲ衣テ虞將軍ヲ見テ曰ク臣願ク  
 ハ帝ニ見ヘ以テ便事ヲ言ハン虞將軍入リテ帝ニ言ス

帝召シ入レ食ヲ賜フ婁敬説テ曰ク陛下洛陽ニ都シテ以テ周室ト隆ヲ比セント欲スルカ帝ノ曰ク然リト婁敬曰ク洛陽ハ天下ノ中ナリ徳アレハ以テ興リ易ク徳ナケレハ以テ亡ヒ易シ秦ノ地ハ山ヲ被リ河ヲ帶ヒ四塞以テ固メトナス陛下秦ノ故地ヲ案セハ此レ天下ノ亢ヲ搯シテ而テ其背ヲ拊ツルナリト高帝羣臣ニ問フ皆争ヒ言フ周ハ王タルヲ數百年秦ハ二世ニシテ亡フ洛陽ニ都スルニ如カスト良ノ曰ク洛陽ハ四面敵ヲ受ク武ヲ用ユルノ國ニアラス關中ハ殺函ヲ左ニシ隴蜀ヲ右ニス三面ヲ阻テ、而テ守ル敬ノ説是ナリト帝即

日車ニ駕シ西シテ關中ニ都ス帝ノ曰ク秦ノ地ニ都スルヲ言フモノハ婁敬ナリ婁ハ即チ劉ナリト姓ヲ劉氏ト賜ヒ拜シテ郎中ト爲シ奉春君ト號ス

張良留侯ニ封セララル

留侯張良病ヲ謝シ穀ヲ避ク曰ク家世々韓ニ相タリ韓滅ヒ爲メニ讐ヲ報セリ今三寸ノ舌ヲ以テ帝者ノ師トナリ萬戶侯ニ封セララル此レ布衣ノ極ナリ願クハ人間ノ事ヲ棄テ赤松子ニ從ヒ遊ハン耳ト良少キ時下邳ノ圯上ニ於テ老人ニ遇フ老人履ヲ圯下ニ墮ス良ニ謂ツテ曰ク孺子下リテ履ヲ取レト良之レヲ毆ント欲ス其

老タルヲ憫レミ乃チ下テ履ヲ取ル老人足ヲ以テ之レ  
 ナ受ク曰ク孺子教ユヘシ後チ五日我ト此ニ期スト良  
 期ノ如ク往ク老人已ニ先ツ在リ怒テ曰ク長者ト期シ  
 テ後ル、ハ何ソヤ復タ五日ヲ約ス往クニ及ヒ老人又  
 先ツ在リ怒テ復タ五日ヲ約ス良半夜ニシテ往ク老人  
 至ル乃チ喜ヒ授クルニ一編ノ書ヲ以テス曰ク此レヲ  
 讀メハ帝者ノ師タルヘシ異日濟北穀城山下ノ黃石ヲ  
 見ルアラン即チ我レナリト旦タニ之レヲ見レハ乃チ  
 太公ノ兵法ナリ良之レヲ異トシ晝夜習讀セリ旣ニシ  
 テ高祖ヲ佐ケ天下ヲ定ム功臣ヲ封スルニ及ヒ良ヲシ

テ自ラ齊ノ三万戸ヲ擇ハシム良曰ク臣始メ陛下ト留  
 ニ遇ヘリ此レ天臣ヲ以テ陛下ニ授クルノ地ナリ留ニ  
 封セラレハ足レリト後チ穀城ヲ經ルニ果シテ黃石ヲ  
 得タリ之レヲ奉祠スト云フ

蕭何鄴侯ニ封セラル

漢ノ高帝六年符ヲ剖キテ功臣ヲ封ス鄴侯蕭何食邑獨  
 リ多シ功臣皆曰ク臣等堅ヲ被リ銳ヲ執リ多キモノハ  
 百餘戰少キモノハ數十合城ヲ攻メ地ヲ略シ大小各差  
 アリ蕭何未タ嘗テ汗馬ノ勞アラス徒ラニ文墨ヲ持シ  
 テ議論ス反テ臣等ノ上ニ居ルハ何ソヤ帝ノ曰ク諸君

獵ヲ知レリヤ獸ヲ逐殺スルモノハ、狗ナリ發縱シテ指  
示スルモノハ人ナリ諸君ハ徒ラニ能ク走獸ヲ得ルノ  
ミ功ハ狗ナリ蕭何ノ如キニ至テハ功ハ人ナリト群臣  
敢テ言フモノナシ

叔孫通朝儀ヲ起ス

漢ノ高帝秦ノ苛法ニ懲リ務メテ簡易ヲ爲ス群臣酒ヲ  
飲ミ功ヲ争ヒ醉テ或ハ妄呼シ劍ヲ拔テ柱ヲ撃ツ時ニ  
薛ノ人叔孫通ナルモノアリ秦ノ時文學ヲ以テ博士タ  
リ帝ニ説テ曰ク儒者ハ與ニ進ミテ取リ難シ與ニ成レ  
ルヲ守ルヘシ願クハ魯ノ諸生ヲ召シ臣ノ弟子ト共ニ

朝儀ヲ起サン帝曰ク難キ無キヲ得ンヤ通曰ク禮ハ時  
世人情ニ因リ之レカ節文ヲ爲スモノナリ臣願クハ頗  
ル古禮ト秦ノ儀トヲ采リ雜ヘテ之ヲ就サン帝之レニ  
從フ魯ニ兩生アリ肯テ行カスシテ曰ク禮樂ハ徳ヲ積  
ミテ後起スヘキナリト通徴ス所ノ三十人及ヒ帝ノ左  
右ト弟子百餘人ト綿繆ヲ野外ニ爲シ以テ之レヲ習ハ  
ス後チ長樂宮成ル諸侯群臣皆朝賀ス謁者禮ヲ治シ諸  
侯王以下吏六百石ニ至ルマテヲ引キ次ヲ以テ奉賀ス  
皆振恐肅敬セサルナシ禮畢リテ法酒ヲ置ク御史法ヲ  
執リ儀ノ如クナラサルモノハ輒チ引キ去ラシム朝ヲ

竟へ酒ヲ罷ムルニ至ルマテ敢テ誼謹シ禮ヲ失フモノ  
ナシ帝ノ曰ク吾乃チ今日皇帝タルノ貴キヲ知レリト  
通ヲ拜シテ大常ト爲ス

韓信誅セララル

漢ノ十年韓信反ヲ謀リ誅ニ伏ス是レヨリ先キ人上書  
シテ楚王韓信反スト告クルモノアリ諸將曰ク兵ヲ發  
シ孺子ヲ坑ニセント高帝以テ陳平ニ問フ平之レヲ危  
ミ曰ク古へ天子巡狩シテ諸侯ヲ會スル事アリ陛下第  
タ出テ、雲夢ニ僞遊シ諸侯ヲ陳ニ會シ因テ以テ信ヲ  
禽ニセハ一力士ノ事ノミト帝之レニ從ヒ諸侯ニ令シ

テ曰ク陳ニ會セヨ吾レ將ニ雲夢ニ遊ハントス陳ニ至  
ル信上謁ス武士ニ命シテ信ヲ縛シ後車ニ載セテ歸ル  
信カ曰ク果シテ人ノ言ノ如シ狡兔死シテ走狗烹ラレ  
飛鳥盡キテ良弓藏マリ敵國破レテ謀臣亡フ天下已ニ  
定ル臣固ヨリ烹ラル可シト遂ニ械繫シテ以テ歸リ赦  
シテ淮陰侯ト爲ス帝嘗テ信ニ諸將ノ能ク兵ニ將タル  
多少ヲ問フ帝ノ曰ク我カ如キハ能ク幾何ニカ將タラ  
ン信ノ曰ク陛下ハ十万ニ將タルニ過キスト帝ノ曰ク  
君ニ於テハ如何ン曰ク臣ハ多々益々辨スト帝笑フテ  
曰ク多々益々辨セハ何ヲ以テ我カ爲メニ禽ニセララル



日ク陛下ハ兵ニ將タル能ハスシテ能ク將ニ將タリ此  
 レ信ノ禽ニセラル、ユヘンナリ且ツ陛下ハ所謂天授  
 ニシテ人力ニアラサルナリト是ニ至リ代ノ相國陳豨  
 反ス帝自ラ將トシテ之ヲ擊ツ信カ舍人ノ弟變ヲ上リ  
 信カ陰カニ豨ニ通スルヲ告ク呂后蕭何ト謀リ詐リテ  
 豨已ニ敗死スト稱シ信ヲ給キ入テ戰捷ヲ賀セシメ因  
 テ武士ヲ伏セ信ヲ縛セシメ之ヲ斬ル信カ日ク吾レ悔  
 ラクハ蒯徹ガ謀ヲ用ヒス乃チ兒女子ノ詐ムク所ト爲  
 ルト遂ニ三族ヲ夷セラル

## 陸賈太中大夫ニ拜セラル

陸賈ハ楚人ナリ客ヲ以テ漢ノ高祖ニ從ヒ左右ニ在リ  
 常ニ諸侯ニ使ス漢ノ十一年高祖陸賈ヲシテ南海ノ尉  
 佗ヲ立テ南越王ト爲ス賈至ル尉佗醜結箕居以テ賈ヲ  
 見ル賈進ミ説テ日ク足下ハ中國ノ人今天性ニ反シ冠  
 帶ヲ棄テ區々ノ越ヲ以テ天子ニ抗セントス禍且サニ  
 身ニ及ハントスト尉佗乃チ蹶然起坐シ賈ニ謝シ臣ト  
 稱シ漢ノ約ヲ奉ス賈歸リ以テ報ス太中大夫ニ拜セラ  
 ル賈時々前テ詩書ヲ説ク帝之ヲ罵リ日ク乃公ハ馬上  
 ナ以テ天下ヲ得タリ安ンゾ詩書ヲ事トセント賈ノ日  
 ク陛下馬上ヲ以テ之ヲ得ルモ寧ンゾ馬上ヲ以テ之レ

ナ治ム可ケンヤ文武並ヒ用ヒハ長久ノ術ナリ秦ヲシ  
テ天下ヲ并ハセ仁義ヲ行ヒ先聖ニ法ラシメハ陛下安  
ンゾ之レヲ有ツヲ得ンヤ帝ノ曰ク試ミニ我カ爲メニ  
書ヲ著シ秦ノ失フユヘン吾カ得ルユヘン及ヒ古ノ成  
敗ヲ述ヘヨト是ニ於テ賈書十二篇ヲ著ハス奏スル毎  
ニ善ト稱シ號シテ新語ト曰フ

呂后商山ノ四皓ヲ招ク

漢ノ高祖ノ寵姬戚氏ナルモノ趙王如意ヲ生ム呂后疏  
セラレ太子仁弱ナリ帝如意ノ己レニ類スルヲ以テ太  
子ヲ廢シ如意ヲ立ント欲ス群臣爭ヘル能ハス呂

后人ヲシテ張良ヲ強ヒ要メ計ラシム良曰ク此レ口舌  
ヲ以テ争ヒ難シ願フニ上ノ致スアタハサル所ノモノ  
四人アリ曰ク東園公綺里季夏黃公角里先生ナリ上  
士ヲ侮嫚スルヲ以テ山中ニ逃レ匿ル義以テ漢ノ臣タ  
ラス上此四人ヲ高シトス今太子ヲシテ書ヲ爲リ詞ヲ  
卑フシ安車以テ固ク請ハシメハ宜シク來ルヘシ至ラ  
ハ以テ客ト爲シ時ニ從ヘテ入朝シ上ヲシテ之ヲ見セ  
シメハ則チ一助ナリ呂后人ヲシテ太子ノ書ヲ奉シ之  
ヲ招カシム四人至ル時ニ帝黥布ヲ擊テ還リ愈々太子  
ヲ易ント欲ス後チ置酒シテ太子侍ル良ノ招ク所ノ四

六十  
人ノモノ從フ年皆八十餘鬚眉皓白衣冠甚々偉ナリ帝  
恠ミ之ヲ問フ四人前ンテ對ヘ各姓名ヲ云フ帝大ニ驚  
テ曰ク吾レ公ヲ求ムル數歲公我レヲ避逃ス今何ニ由  
テカ吾カ兒ニ從フテ游フヤ四人曰ク陛下士ヲ輕シ善  
ク罵ル臣義ヲ以テ辱メラレス今太子仁孝恭敬ニシテ  
士ヲ愛ス天下頸ヲ延ヘ太子ノ爲メニ死セント願フモ  
ノ多シ故ニ臣等來ルノミ帝ノ曰ク公ヲ煩サシ幸ヒニ  
卒ニ調護セヨト四人出ツ帝戚夫人ヲ召シ之ヲ指示シ  
テ曰ク我レ之ヲ易ント欲スルモ彼ノ四人ノモノ之ヲ  
輔ク羽翼已ニ成レリ動シ難シト是ニ因テ太子遂ニ安

呂后相ヲ問フ

漢ノ高祖黥布ヲ擊ツノ時流矢ニ中リ病ヒ甚シ呂后問  
フ陛下百歲ノ後子蕭相國死セハ誰カ之レニ代ルヘキ  
帝ノ曰ク曹參可ナリ其次ヲ問フ曰ク王陵可ナリ然レ  
モ少シク臆ナリ陳平以テ之レヲ助クベシ陳平ハ智餘  
リアレモ然レモ以テ獨リ任シ難シ周勃ハ重厚ニシテ  
文少シ然レモ劉氏ヲ安ニスルモノハ必ラス勃ナラン  
太尉タラシムベシ呂后其次ヲ問フ帝ノ曰ク此ノ後ハ  
亦汝ノ知ル所ニアラサルナリト

呂后趙王及戚夫人ヲ殺ス

漢ノ孝惠帝嘗テ晨ニ出テ、射ル趙王年少シ蚤起スル能ハス呂后其獨居ヲ聞キ人ヲシテ醜ヲ持シ之レニ飲マシム黎明ニシテ帝還ル趙王已ニ死ス呂后遂ニ戚夫人ノ手足ヲ斷チ眼ヲ去リ耳ヲ輝シ瘡藥ヲ飲マシム厠中ニ居ラシメ命シテ人彘ト曰フ居ルヲ數日帝ヲ召シ之レヲ觀セシム帝之レヲ見テ問ヒ乃チ其戚夫人ナルヲ知リ大ニ哭シ因テ病ミ歲餘ニシテ起ツアタハス人ヲシテ呂后ニ請ハシメ曰ク此レ人ノ爲ス所ニ非ス臣太后ノ子トナリ終ニ天下ヲ治ムルアタハスト此レヨ

リ日ニ飲ンテ淫樂ヲ爲シ政ヲ聽カス

呂后諸呂ヲ王トス

漢ノ少帝元年呂后諸呂ヲ立テ王ト爲サント議ス右丞相王陵曰ク高帝白馬ヲ刑シ盟フテ曰ク劉氏ニ非スシテ王ダラハ天下共ニ之レヲ擊テト呂后悅ハス左丞相陳平絳侯周勃ニ曰フ勃等對ヘテ曰ク高帝天下ヲ定メ子弟ヲ王トス今太后制ヲ稱ス昆弟諸呂ヲ王トスルヲ不可ナシト呂后喜ヒ朝ヲ罷ム王陵陳平周勃ヲ讓メテ曰ク高帝血ヲ歃リテ盟フ諸君在ラスヤ諸君意ニ阿リ約ニ背カント欲ス何ノ面目アツテ高帝ニ地下ニ見ヘ

ンヤ平勃曰ク今ニ於テ面折廷争スルハ臣等君ニ如カ  
サルナリ社稷ヲ全フシ劉氏ノ後チヲ定ムルハ君亦タ  
臣等ニ如カサルナリト陵以テ應スルナシ王陵相ヲ罷  
ム遂ヒニ呂氏ヲ王トス

呂氏ノ亂

漢ノ少帝八年呂太后崩ス諸呂亂ヲ爲サント欲ス時ニ  
呂祿北軍ニ將タリ呂産南軍ニ將タリ太尉勃兵ヲ主ト  
ル能ハス平勃酈寄ヲシテ祿ニ説キ印ヲ解キ兵ヲ以テ  
勃ニ授ケシム勃軍門ニ入り令シテ曰ク呂氏ノ爲ニス  
ル者ハ右祖セヨ劉氏ノ爲メニスル者ハ左祖セヨト軍

中皆左祖ス朱虛侯劉章ヲ召シテ卒千餘人ヲ予フ呂産  
ヲ撃テ之レヲ殺ス兵ヲ分部シテ悉ク諸呂ヲ捕フ少長  
トナク皆ナ之レヲ斬ル

周勃右丞相ヲ罷ム

漢ノ文帝位ニ即キ益國家ノ事ニ明習ス朝ニシテ右丞  
相勃ニ問テ曰ク天下一歳ノ決獄幾何ソ勃知ラスト謝  
ス又問フ一歳ノ錢穀出入幾何ソ勃又タ知ラスト謝ス  
惶愧シテ汗出テ背ヲ沾ス帝左丞相平ニ問フ平ノ曰ク  
主者アリ即シ決獄ヲ問ハ、廷尉ヲ責メヨ錢穀ヲ問ハ  
、治粟内史ヲ責メヨ帝曰ク苟モ主者アラハ君ノ主ト

ル所ノモノハ何事ソヤ平謝シテ曰ク陛下罪ヲ宰相ニ  
 待タシム宰相ハ上ミ天子ヲ佐ケ陰陽ヲ理シ四時ヲ順  
 ニシ下モ萬物ノ宜シキヲ遂ケ外ハ四夷ヲ鎮撫シ内ハ  
 百姓ヲ親附シ卿大夫ヲシテ其職ヲ得セシム帝乃チ善  
 シト稱ス勃大ヒニ慚チ出テ、陳平ヲ讓メテ曰ク君獨  
 リ素ト何ソ我レニ對テ教ヘサル陳平曰ク君其位ニ居  
 リ其任ヲ知ラサルカ且陛下即シ長安中ノ盜賊ノ數ヲ  
 問ハ、君強テ對ヘント欲スルカト勃其能ノ及ハサル  
 ヲ知リ病ヲ謝シテ免ス

張釋之廷尉ト爲ル

漢ノ孝文帝三年張釋之廷尉トナル帝時ニ中渭橋ヲ行  
 ク一人アリ橋下ヨリ走ル乘輿ノ馬驚ク騎ヲシテ之ヲ  
 捕ヘシメ廷尉ニ屬ス釋之奏ス蹕ヲ犯スモノハ罰金ニ  
 當セント帝怒ル釋之曰ク法是ノ如シ更ニ之ヲ重クセ  
 ハ是レ法民ニ信ナラス廷尉ハ天下ノ平ナリ一タヒ傾  
 カハ天下ノ法ヲ用ユルモノ皆之カ爲メニ輕重セン民  
 アンゾ手足ヲ措ク所アラシヤ帝良久フシテ曰ク廷尉  
 ノ當是ナリト其後チ人アリ高廟ノ玉環ヲ盜ム捕ヘテ  
 之ヲ得タリ廷尉ニ下シテ治セシム釋之奏シテ棄市ニ  
 當ス帝大ヒニ怒リ曰ク人先帝ノ器ヲ盜ム吾レ之ヲ族

ニセント欲ス而ルヲ廷尉法ヲ以テ之レヲ奏ス吾カ宗廟ニ恭承スルユヘンニ非ルナリ釋之日ク法是ノ如シ今宗廟ノ器ヲ盜ム而テ之ヲ族ニセハ假令ヘハ愚民アリテ長陵一杯ノ土ヲ取ラハ陛下何ヲ以テ之ニ法ヲ加シヤト帝乃チ之ヲ許ス

## 淮南王ノ反

淮南厲王長ハ漢ノ高祖ノ少子ナリ高祖十一年長ヲ立テ淮南王ト爲ス孝文帝位ニ即クニ及ヒ王自ラ以爲ラク最モ親シト驕蹇ニメ法ヲ奉セス文帝親ノ故ヲ以テ常ニ之ヲ寬赦ス六年王自ラ法令ヲ作り其國ニ行ヒ漢

ノ置ク所ノ吏ヲ逐フ請テ自ラ相二千石ヲ置ク文帝曲ケテ之ニ從フ又擅マ、ニ不辜ヲ刑殺シ及ヒ人ヲ爵シテ關内侯ト爲ス文帝自ラ之ヲ責ムルニ重カル薄昭ヲシテ書ヲ與ヘ之ヲ風諭セシム王說ヒス遂ニ反ス有司之ヲ治メ王ヲ召サシム王長安ニ至ル其死罪ヲ赦シ蜀郡ニ徙サル憤恚シテ食ハスシテ死ス民之ヲ歌フテ曰ク一尺ノ布モ尙ホ縫フ可ク一斗ノ粟モ尙ホ舂ク可シ兄弟二人相ヒ容レスト文帝之ヲ聞テ病フ後チ其四子ヲ封シテ侯ト爲ス

## 賈誼ノ上疏

漢ノ孝文帝賈誼ヲ以テ長沙王ノ大傅ト爲シ又梁王ノ大傅ニ徙ル上疏シテ曰ク方今ノ事勢爲メニ痛哭ス可キモノニアリ他日諸侯長大反側制シ難キ是レナリ爲メニ流涕ス可キモノニアリ朝廷ニシテ蠻夷ヲ奉シ輕重倒置ス其一ナリ細娛ヲ翫ヒ大患ヲ圖ラス其ノ二ナリ爲メニ長大息スヘキモノ六アリ服用奢僭其ノ一ナリ俗吏大躰ヲ知ラス其ノ二ナリ經制定ラス其ノ三ナリ太子ヲ輔導スヘキ其四ナリ取舍ヲ審定スヘキ其ノ五ナリ大臣ヲ優禮スヘキ其六ナリト

文帝肉刑ヲ除ク

漢ノ文帝十三年齊ノ太倉ノ令淳于意ナルモノ罪アリ刑ニ當ス長安ニ逮繫セララル其少女緹縈上書シテ曰ク妾ノ父吏ト爲リ齊國皆其ノ廉平ヲ稱ス今法ニ坐セラレ刑ニ當ス妾夫ノ死スルモノハ復タ生クヘカラス刑セララル、モノハ復タ屬スヘカラス過ヲ悔ヒ自新セント欲スルモ得ヘカラサルヲ傷ム願クハ没入シテ官婢トナリ以テ父ノ刑罪ヲ贖ヒ自新ヲ得セシメヨト文帝其意ヲ憐ミ詔シテ曰ク詩ニ云フ愷弟ノ君子ハ民ノ父母ト其レ肉刑ヲ除ヒテ之レニ易ヘヨト丞相張倉等請フテ律ヲ定メ髡ニ當スルモノハ城旦舂ト爲シ黥髡ニ



當スルモノハ鉗シテ城旦舂トシ劓キルニ當スルモノハ笞三百趾キルニ當スルモノハ笞五百其城旦舂ハ各々歳數アリ以テ免ス

文帝細柳ノ軍ヲ勞フ

漢ノ文帝後六年匈奴上郡雲中ニ寇ス將軍周亞父ニ詔シ細柳ニ屯セシメ劉禮ヲシテ霸上ニ次セシメ徐厲ヲシテ棘門ニ次セシメ以テ胡ニ備フ文帝自ラ軍ヲ勞フ霸上及ヒ棘門ノ軍ニ至ル直チニ馳セテ入ル大將以下ノ騎皆送迎ス已ニシテ細柳ニ之ク入ルヲ得ス先驅ノ日ク天子將サニ軍門ニ至ラントスト都尉ノ日ク軍中

ニハ將軍ノ令ヲ聞キ天子ノ詔ヲ聞カスト帝乃チ使ヲ遣ハシ節ヲ持シ將軍亞父ニ詔ス乃チ言ヲ傳ヘ門ヲ開カシム門士車騎ニ請フテ日ク將軍約スラク軍中ハ驅馳スルヲ得スト帝乃チ轡ヲ按シ徐行シテ營ニ至リ禮ヲ成シテ去ル群臣皆驚ク帝ノ日ク嗟呼此レ眞ノ將軍ナリ向キノ霸上棘門ノ軍ハ兒戲ナルノミト

吳楚七國ノ反

漢ノ孝文帝ノ時吳王濞ノ太子入り見ユ皇太子ニ侍シ博シテ道ヲ争フ不恭ナリ皇太子博局ヲ引キ之ヲ提殺ス濞怨望シ始メテ反謀アリ病ト稱シテ朝セス鼂錯數

々吳ノ過チ削ル可キヲ言フ文帝忍ヒス孝景帝位ニ即  
 クニ及ンテ錯曰ク吳王天下ノ亡人ヲ誘ヒ以テ亂ヲ作  
 スヲ謀ル今之レヲ削ルモ亦反シ削ラサルモ亦反セン  
 之ヲ削レハ其反スル亟カニシテ禍小ナリ削ラサレハ  
 其反スル遲フシテ禍大ナリト景帝公卿列侯宗室ヲシ  
 テ雜議セシム敢テ難スルモノナシ適マ楚王來朝ス錯  
 因テ言フ楚王薄太后ノ喪ニ居リ服舍ニ姦スト其ノ東  
 海郡ヲ削ル趙王罪アリト其ノ常山郡ヲ削ル膠西王爵  
 ヲ賣リ姦アリト其ノ六縣ヲ削ル吳ノ會稽豫章ヲ削ル  
 ノ檄至ルニ及ヒ吳王遂ニ先ツ兵ヲ起ス膠西膠東菑川

濟南楚趙皆先ツ吳ノ約アリ遂ニ同ク反ス吳王其士卒  
 ヲ悉シ國中ニ令シテ曰ク寡人年六十二身自ラ將タリ  
 少子年十四亦士卒ノ先タリ諸口年ノ上ハ寡人ト同シ  
 ク下ハ少子ト等シキモノ皆發セヨト凡ソ二十餘萬人  
 閩東越モ亦兵ヲ發シテ之ニ從フ西淮水ヲ渡リ楚ノ兵  
 ヲ并セ諸侯ニ書ヲ遣リ黓錯ヲ罪狀シ梁ヲ攻メ棘壁ヲ  
 破リ數萬人ヲ殺シ勝ニ乘シテ前ム是ニ於テ景帝乃チ  
 中尉周亞夫ヲ拜シテ大尉トナシ三十六將軍ニ將トシ  
 往キテ吳楚ヲ擊タシメ酈寄ニ趙ヲ變布ニ齊ヲ擊タシ  
 ム錯素ヨリ吳ノ相袁盎ト善カラス錯御史大夫タルハ

盜ヲ按シテ庶人ト爲ス是ニ於テ盜夜ル竇嬰ニ見ヘ吳  
 ノ反スルユヘンヲ言フ嬰帝ニ言フ因テ盜ヲ召シ之レ  
 ニ問フ盜左右ヲ屏ケシメ對ヘテ曰ク獨リ錯ヲ斬リ吳  
 楚七國ヲ赦シ其故地ヲ復セハ兵及ニ血ヌルナクシテ  
 而テ俱ニ罷マント乃チ丞相等ヲシテ錯ヲ刻奏セシメ  
 大逆無道ニ處シ東市ニ要斬シ父母妻子同産少長トナ  
 ク皆棄市セララル時ニ亞父昌邑ニ在リ壁ヲ堅フシ肯テ  
 戰ハス已ニシテ吳楚ノ士卒多ク飢死シテ叛散ス吳王  
 乃チ引キ去ル亞夫精兵ヲ出シ追撃シテ大ニ之レヲ破  
 ル吳王其軍ヲ棄テ夜ル亡ク楚王自殺ス吳王東越ヲ保

シ亡卒ヲ聚ム亞夫人ヲシテ利ヲ以テ東越ニ暗ハシム  
 東越即チ吳王ヲ給キ出テ軍ヲ勞ハシメ人ヲシテ吳王  
 ナ縦殺セシム其頭ヲ盛リ傳ヲ馳セ以テ聞ス吳楚反シ  
 テヨリ凡ソ三月是ニ至リ諸反皆平ク

董仲舒ノ對策

漢ノ武帝位ニ即キ賢良方正直言極諫ノ士ヲ擧ケ親ラ  
 之レヲ策問ス廣川ノ董仲舒對ヘテ曰ク事ハ強勉ニ在  
 ルノミ強勉シテ學問スレハ則チ聞見博ク而シテ智益  
 明カナリ強勉シテ道ヲ行ヘハ則チ德日ニ起ル而テ大  
 ヒニ功有リ又曰ク人君ハ心ヲ正シテ以テ朝廷ヲ正ス

朝廷ヲ正シテ以テ百官ヲ正ス百官ヲ正シテ以テ萬民  
 ヲ正ス萬民ヲ正シテ以テ四方ヲ正ス四方正フシテ遠  
 近正ニ一ナラサル莫シ而シテ邪氣ノ其間ニ奸スル無  
 シ是ヲ以テ陰陽調ノヒ風雨時アリ群生和シ萬民殖ス  
 諸福ノ物之ヲ致ス可シ祥畢ク至ラサルナシ而シテ王  
 道終フ陛下下行高フシテ而テ恩厚シ知明カニシテ意美  
 ナリ民ヲ愛シテ而テ士ヲ好ム然レモ教化立タス萬民  
 正シカラス譬ヘハ琴瑟ノ調ハカル甚シキ者ハ必ラス  
 解テ之ヲ更メ張リ乃チ鼓ス可キナリ政ヲ爲シテ行ハ  
 レサル甚シキ者ハ必ラス變シテ之レヲ更メ化シテ乃

チ理ス可キナリ漢天下ヲ得テヨリ以來常ニ治ヲ欲ス  
 而レモ今ニ至テ善ク治ムヘカラサル者ハ當サニ更メ  
 化スヘクシテ更メ化セサレハナリ又曰ク士ヲ養フハ  
 大學ヨリ大ナルハナシ大學ハ賢士ノ關スル所ナリ教  
 化ノ本源ナリ願クハ大學ヲ興シ明師ヲ置テ以テ天下  
 ノ士ヲ養ハン又曰ク郡守縣令ハ民ノ師帥ナリ承流  
 シテ而テ宣化セシムル所ナリ宜シク列侯郡守ヲシテ  
 各其吏民ノ賢ナル者ヲ擇ンテ歲コトニ各三人ヲ貢セ  
 シメヨ又曰ク春秋一統ヲ大ニスルモノハ天地ノ常  
 經古今ノ通誼ナリ今師コトニ道ヲ異ニシ人コトニ論

ヲ異ニス臣愚以爲ヲク諸々六藝ノ科ノ孔子ノ術ニ在  
ラサル者ハ皆其道ヲ絶テ然シテ後チニ統紀一ナル可  
ク法度明ナル可ク而シテ民從フ所ヲ知ラシ帝其對ヲ  
善シトシテ以テ江東ノ相ト爲ス

公孫弘ノ對策

漢ノ武帝ノ時菑川ノ公孫弘對策シテ曰ク能ニ因リ官  
ニ任スレハ則チ分職治リ無用ノ言ヲ去レハ則チ事情  
得ル無用ノ器ヲ作ラサレハ則チ賦斂省ク民時ヲ奪ハ  
ス民力ヲ妨ケサレハ則チ百姓富ミ有德ノ者進ミ無德  
ノ者退ケハ則チ朝廷尊シ有功ノ者ハ上ミ無功ノ者ハ

下モナレハ則チ羣臣遼ミ罰罪ニ當レハ則チ姦邪止ミ  
賞賢ニ當レハ則チ臣下勸ム此ノ八ツノモノハ治ノ本  
ナリ臣之レヲ聞ク氣同シケレハ則チ從ヒ聲比スレハ  
則チ應ス今人主上ニ和德アレハ百姓下ニ和合ス故ニ  
心和スレハ氣和シ氣和スレハ形和ス形和スレハ聲和  
ス聲和スレハ則チ天地ノ和之レニ應スト武帝擢テ第  
一トナシ拜シテ太常博士トナス

巫蠱ノ獄

漢ノ武帝征和二年方士及ヒ諸神巫多ク京師ニ聚ル率  
子皆左道ヲ以テ衆ヲ惑ス武帝嘗テ晝寢又夢ミヲク木

入數千杖ヲ持シ帝ヲ擊ントス武帝寤メ躰不平ニシテ  
 遂ニ忽々タリ時ニ江充ナルモノアリ太子及ヒ衛皇后  
 ト隙アリ因テ言フ崇リ巫蠱ニアリト帝甘泉ニ如キ江  
 充ヲ以テ使者トナシ巫蠱ノ獄ヲ治メシム太子ノ宮ヲ  
 掘テ云フ木人ヲ得ル尤モ多シト太子據懼ル密ヲシテ  
 詐リ使者トナシ充ヲ收捕シ之ヲ斬ル具ニ母衛皇后ニ  
 自フシ中廐ノ車ヲ發シ射士ヲ載セ武庫ノ兵ヲ出シ長  
 樂宮ノ衛卒ヲ發ス長安擾亂ス武帝甘泉ヨリ來リ詔シ  
 テ三輔ノ兵ヲ發ス丞相劉屈氂之ニ將タリ太子モ亦々  
 制ヲ矯メ兵ヲ發シ丞相ノ軍ニ逢ヒ合戦スルヲ五日死

スル者數萬人皇后自殺ス太子亡ケテ東ノ方湖ニ至ル  
 自經シテ死ス後チ高廟ノ寢郎田千秋ナルモノアリ上  
 書シテ曰ク白頭翁アリ臣ニ教ヘテ云ク子父ノ兵ヲ弄  
 スル罪答ニ當スト上悟テ曰ク此レ高廟ノ神靈我レニ  
 告クルナリ太子ノ罪ナキヲ知ルト乃チ思子宮ヲ作り  
 歸來望思ノ臺ヲ湖ニ作ル天下聞テ之ヲ悲ム

## 輪臺ノ詔

漢ノ武帝征和四年深ク既往ノ悔ヲ陳ヘ詔シテ曰ク前  
 キニ有司奏シ民賦三千ヲ益シ邊用ヲ助ケント欲ス是  
 重チテ老弱孤獨ヲ困ムルナリ今又卒ヲ遣リ輪臺ニ田

セツト請フ輪臺ハ車師ヨリ西千餘里前キニ車師ヲ擊  
 チ其王ヲ降ストイヘ厄遼遠ニシテ食ニ乏シク道ニ死  
 スルモノ尙ホ數千人況ンヤ益西スルヲヤ匈奴常ニ言  
 フ漢ハ極メテ大ナリ然レ厄飢渴ニ耐ヘス一狼ヲ失ヘ  
 ハ千羊ヲ走ラスト頃ヨロ貳師敗レ軍士死シ畧ホ離散  
 セリ悲痛常ニ朕ノ心ニ在リ今又遠ク輪臺ニ田クリ亭  
 隧ヲ起サント請フ是レ天下ヲ勞擾ス民ヲ優スル所以  
 ニアラサルナリ朕聞クニ忍ヒス當今ノ務ハ苛暴ヲ禁  
 シ擅賦ヲ止メ本農ヲ力メ馬復ノ令ヲ脩メ以テ缺ヲ補  
 ヒ武備ヲ乏フスル勿キニアル而已ト是レヨリ復タ軍

ヲ出サス

汲黯ノ嚴正

漢ノ武帝ノ時汲黯獨リ嚴ヲ以テ憚カラル數々切諫シ  
 テ内ニ留マルヲ得ス東海ノ守ト爲リ清淨ヲ好ム閭内  
 ニ臥シテ出テス而モ郡中大ニ治マル入テ九卿トナル  
 帝方サニ天下文學ノ士ヲ招ク嘗テ曰ク吾レ云々セン  
 ト欲スト黯ノ曰ク陛下ハ内多欲ニソ外仁義ヲ施ス奈  
 何ソ唐虞ノ治ニ效ハント欲スルカ武帝怒リ朝ヲ罷ム  
 退ヒテ左右ニ謂ツテ曰ク甚ヒ哉汲黯ノ戇ナルヤト黯  
 多病ナリ莊助爲メニ告ヲ請フ武帝曰ク汲黯ハ如何ナ

ル人ソヤ助曰ク黯ヲシテ職ニ任シ官ニ居ラシメハ以テ人ニ踰ルナシ然レモ其少主ヲ輔ケ城ヲ守リ深堅ナルニ及ヒテハ自ラ養育ト云フトイハモ亦奪フアタハサルナリ武帝曰ク然リ古ヘ社稷ノ臣アリ黯ノ如キニ至リテハ之ニ近シト淮南王安反ヲ謀ル曰ク漢廷ノ大臣獨リ汲黯直諫ヲ好ム節ヲ守リ義ニ死ス丞相弘等ノ如キハ之ニ説クト蒙ヲ發スル如シト黯嘗テ淮南ノ太守ニ拜セラル曰ク臣常ニ狗馬ノ病アリ郡事ニ任スルアタハス臣願クハ郎中ト爲リ禁闥ニ出入シ過チヲ補ヒ遺ヲ拾ハント武帝曰ク君淮南ヲ薄シトスルカ吾今

君ヲ召ス顧フニ淮南ノ吏民相ヒ得ス吾徒ラニ君ノ重キヲ得テ臥シナカラニシテ之ヲ治ント黯淮南ニ至ル十年竟ニ卒ス黯甚タ帝ノ爲メニ重ンセラル將軍衛青貴シト雖モ帝或ハ厠ニ踞シテ之ヲ見ル黯力如キハ冠セサレハ見サルナリ

東方朔ノ詼諧

漢ノ武帝ノ時東方朔ナルモノアリ持論ヲ根トセス詼諧ヲ好ム數々召サレテ前ニ至リ談話ス人主未タ嘗テ説ハサルアラス帝俳優ヲ以テ之ヲ畜フ朔嘗テ帝ノ前ノ侏儒ニ語ル以爲ラク帝汝ヲ殺サント欲スト侏儒泣



テ命ヲ請フ帝朔ニ問フ朔ノ曰ク侏儒ハ飽テ死セント  
欲ス臣ハ饑ヘテ死セント欲スト伏日ニ肉ヲ賜フ晏シ  
朔先ツ肉ヲ斫リテ持シ歸ル帝召シテ問ヒ自ラ責メシ  
ム朔ノ曰ク賜モノヲ受ケ詔ヲ待タス何ソ無禮ナルヤ  
劔ヲ拔テ肉ヲ斫ル何ソ壯ナルヤ之ヲ斫リテ多カラサ  
ルハ何ソ廉ナルヤ歸テ細君ニ遺ル又何ソ仁ナルヤ然  
レ臣朔モ亦時々直諫シ補益スル所アリ

霍光ノ略傳

霍公字ハ子孟票騎將軍去病ノ弟ナリ初メ漢ノ武帝ニ  
事ヘテ禁闈ニ出入スルヲ二十餘年出ツレハ則チ車ヲ

奉シ入レハ則チ左右ニ侍ス小心謹慎未タ嘗テ過チア  
ラス甚タ親信セラル人ト爲リ沈靜詳審出入ニ殿門ヲ  
下ル毎ニ進止常處アリ郎僕射竊ニ之レヲ識シ視ルニ  
尺寸ヲ失ハス武帝孝昭帝ヲ立テント欲スルヤ群臣ヲ  
察スルニ惟タ霍光ノミ忠厚大事ニ任ス可シト黃門ヲ  
シテ周公成王ヲ負フテ諸侯ヲ朝セシムルヲ畫キ以テ  
光ニ賜ハシム後チ武帝病篤シ太司馬大將軍ニ拜セラ  
ル後又タ遺詔ヲ受ケ博陸侯ニ封セラル昭帝ヲ輔ケテ  
政ヲ爲シ民ト休息ス天下無事ニシテ大ニ治マル左將軍  
上官桀嘗テ光ト權ヲ爭ヒ光ヲ帝ニ譖ス帝信任シテ疑

ハス築遂ニ害スル能ハス昭帝崩ス光昌邑王賀ヲ迎ヘ  
テ入テ位ニ即カシム賀淫戯度ナシ奏シテ之ヲ廢シ武  
ノ曾孫病已ヲ迎ヘテ位ニ即カシム是ヲ孝宣帝ト爲ス  
帝立テ六年光卒ス

蘇武匈奴ニ使ス

漢ノ孝武帝天漢元年蘇武中郎將ヲ以テ匈奴ニ使ス匈  
奴之ヲ屈セントス肯セス之ヲ大窖中ニ置キ絶テ飲食  
セシメス武雪ト旃毛トヲ齧ミ并セテ之ヲ咽ミ數日死  
セス匈奴以テ神ト爲ス後チ北海上無人ノ地ニ徙シ羝  
ヲ牧ハシメ曰ク羝乳セハ乃チ歸ルヲ得セシメント武

野鼠ヲ掘リ草實ヲ取り之ヲ食フ臥起ニ漢節ヲ持シ失  
ハス時ニ李陵降テ匈奴ニ在リ武ニ説テ曰ク人生ハ朝  
露ノ如シ何ソ自ラ苦シムフ此ノ如キヤ陵ト衛律トハ  
匈奴ニ降リテ皆富貴ナリ律モ亦屢々武ニ降ヲ勸ム終  
ニ肯セス之ヲ久フシテ漢ノ使者匈奴ニ至リ蘇武等ヲ  
求ム匈奴詭テ言フ武已ニ死セリト後チ漢使復々匈奴  
ニ至ル常惠ナルモノ降テ匈奴ニアリ私カニ漢使ヲ見  
テ教ヘ言ハシム天子上林苑中ニ射テ鴈ヲ獲タリ足ニ  
帛書アリ云ク武ハ大澤ノ中ニ在リト匈奴隠スアタハ  
ス乃チ武ヲシテ還ラシム武匈奴ニ留ル十九年始元六

年初テ還ル始メ強壯ヲ以テ出ツ還ルニ及ヒテ須髮盡  
ク白シ拜シテ典屬國トス

上官桀父子廢立ヲ謀ル

漢ノ孝昭帝元鳳元年左將軍上官桀ノ子安ナルモノ霍  
光ノ女婿タリ女ヲ生ム立テ皇后トナス桀ト安ト自ラ  
后ノ祖ト父トヲ以テ乃チ光ノ外祖ヲ以テ朝事ヲ專制  
スルニ從ハス桀ト光ト權ヲ爭フ時ニ鄂國蓋長公主ヲ  
ルモノ愛スル所ノ丁外人ノ爲メニ封侯ヲ求ム許サレ  
ス光ヲ怨ム又燕王且自ラ帝ノ兄ニシテ立ツヲ得サルヲ  
以テ常ニ怨望ス御史大夫桑弘羊子弟ノ爲メニ官ヲ求

ム得ス亦タ光ヲ怨ム是ニ於テ皆且ト謀ヲ通シ詐リテ  
人ヲシテ且カ爲メニ上書セシメテ曰ク光出テ郎羽林  
ヲ都肄ス道上ニ蹕ヲ稱ス又擅ニ幕府ノ校尉ヲ調益ス  
權ヲ專ラニシ自ラ恣ニス疑クハ非常アラント光ノ出  
沐ノ日ヲ候フテ之ヲ奏ス帝肯テ下サス明且光之ヲ聞  
キ畫室ノ中ニ止テ入ラス帝問フ大將軍安クニ在ルヤ  
桀曰ク燕王其罪ヲ告クルヲ以テ敢テ入ラスト詔シテ  
大將軍ヲ召ス光入り冠ヲ免シ頓首シテ謝ス帝曰ク將  
軍廣明ニ往キ郎ヲ試ムルハ此ノ比口ノミ校尉ヲ調シ  
テ以來未タ十日ナルアタハス燕王何ヲ以テ之ヲ知ル

ヲ得ンヤ且ツ將軍非ヲ爲サハ校尉ヲ須ヒスト時ニ帝  
 年十四ナリ左右皆驚ク而テ上書スルモノ果シテ亡ク  
 之ヲ捕フ甚タ急ナリ桀等懼レ帝ニ白フシテ曰ク小事  
 ナリ遂クルニ足ラスト帝聽カス桀ノ黨光ヲ譖ツルモ  
 ノアリ帝輒チ怒テ曰ク大將軍ハ先帝ノ屬シテ朕ノ身  
 ナ輔クル所口敢テ毀ルモノハ之ヲ罪セント是レヨリ  
 敢テ復タ言フモノナシ桀等謀リテ長公主ヲシテ酒ヲ  
 置キ光ヲ招カシメ兵ヲ伏シテ之ヲ拏殺シ因テ帝ヲ廢  
 シ而テ燕王ヲ立ント安又燕王ヲ誘フテ之ヲ誅シ帝ヲ  
 廢シ桀ヲ立テント謀ル會マ其謀ヲ知ルモノアリ以聞

ス是ニ於テ桀安弘羊ヲ捕ヘ宗族ヲ并セ之ヲ誅ス蓋主  
 上燕王ト皆自殺ス

孝宣帝ノ即位

漢ノ孝宣帝初ノ名ハ病已後ニ詢ト改ム武帝ノ曾孫ナ  
 リ初メ戾太子據ト云ヘル人アリ史良娣ヲ納レ史皇孫  
 進ヲ生ム進病已ヲ生ム數月ニノ巫蠱ノ事ニ遭フ皆獄  
 ニ繋カル氣ヲ望ムモノ言ク長安ノ獄中ニ天子ノ氣ア  
 リト武帝使ヲ遣ハシ盡ク獄中ノ人ヲ殺サシム時ニ丙  
 吉ナルモノ獄ヲ治ム拒イテ納レスシテ曰ク他人ノ辜  
 ナキモノモ尙ホ不可ナリ況ンヤ皇曾孫ヲヤト使者還

リ報ス武帝ノ曰ク天ナリト長スルニ及ヒ高材ニノ學  
ヲ好ム亦々遊俠ヲ喜ム具サニ閭里ノ姦邪吏治ノ得失  
ヲ知ル孝昭帝元鳳中大石アリ自ラ起立ス上林ニ僵樹  
アリ復々起ル蠶其葉ヲ食フ文ニ曰ク公孫病已立ツト  
昌邑王賀廢セラレ、ニ及ンテ病已年十八ナリ霍光等  
奏ス病已ハ躬節儉慈仁ニシテ人ヲ愛ス以テ後昭ノ後  
ヲ嗣クヘシト迎ヒ入レテ位ニ即カシム

路温舒ノ上書

漢ノ孝宣帝地節三年廷尉史路温舒上書シテ曰ク臣聞  
ク秦二十失アリ其一尙ホ存ス治獄ノ吏是ナリ夫レ獄

ハ天下ノ大命ナリ死スルモノ復々生クヘカラス絶ツ  
モノ復々屬スヘカラス書ニ曰ク其不辜ヲ殺サンヨリ  
寧口不經ニ失セヨト今治獄ノ吏ハ則チ然ラス上下相  
ヒ毆リ刻ヲ以テ明トナシ深キモノハ公名ヲ獲テ平ナ  
ルモノハ後患多シ故ニ治獄ノ吏皆人ノ死ヲ欲ス人ヲ  
憎ムニアラサルナリ自安ノ道ハ人ノ死ニ在リ是ヲ以  
テ死人ノ血市ニ淋漓シ刑ヲ被ルノ徒肩ヲ比ヘテ立ツ  
夫レ人情安スケレハ則チ生ヲ樂シミ痛メハ則チ死ヲ  
思フ極楚ノ下何ヲ求メテカ得サラン故ニ囚人痛ミニ  
勝ヘス辞ヲ飾リテ之ヲ示ス吏其然ルヲ利トシ指導以

テ之ヲ明カス上奏シテ卻ヲ畏ルレハ鍛鍊シテ之ヲ納  
レ臯陶之ヲ聽クトイヘ氏猶死シテ餘リアリトナス俗  
語ニ曰ク地ニ畫シテ獄トナスモ入ラサルヲ議ス木ヲ  
刻ミテ吏ト爲スモ對セサルヲ期スト此レ皆吏ヲ疾ム  
ノ風悲痛ノ辭ナリ願クハ法制ヲ省キ刑罪ヲ寛クセハ  
太平興ルヘシト帝其言ヲ善シトシ爲メニ廷尉ノ平ヲ  
置ク獄刑號シテ平ト爲スト云フ

霍氏ノ謀反

漢ノ孝宣帝地節四年霍氏謀反シテ誅ニ伏ス其族ヲ夷  
ラク告クルモノ皆列侯ニ封セラル初メ霍氏奢縱ナリ

茂陵ノ除福上疏シテ言ク宜シク時ヲ以テ抑制シテ亡  
フルニ至ラシムルナカルヘシト書三タヒ上ツル聽カ  
ス是ニ至テ人アリ徐生ノ爲メニ上書シテ曰ク客アリ  
主人ニ過ル其竈ノ直突ニシテ傍ニ積薪アルヲ見テ主  
人ニ謂ヒ曲突ニ更メ爲リテ速ニ其薪ヲ徙セト主人應  
ゼス俄カニ失火アリ郷里共ニ之ヲ救フ幸ニシテ息滅  
スルヲ得タリ牛ヲ殺シ酒ヲ置キ其郷人ニ謝ス人アリ  
主人ニ謂ツテ曰ク前キニ客ノ言ヲ聽カシメハ牛酒ヲ  
費サスシテ終ニ火患ナシ今功ヲ論シ而テ賞スルニ曲  
突ニシテ薪ヲ徙セヨト云フモノニハ恩澤ナシ頭ヲ焦

シ額ヲ爛カスヲ以テ上客ト爲スカト帝乃チ福ニ帛ヲ  
賜ヒ以テ郎ト爲ス帝ノ初メテ立テ高廡ニ謁セシキ霍  
光驂乗ス上之ヲ嚴憚シテ芒刺ノ背ニ在ル如シ後チ張  
安世光ニ代テ驂乗ス帝從容肆體甚々安近ス故ニ俗ニ  
傳フ霍氏ノ禍ハ驂乗ニ萌スト

翼遂渤海ヲ治ム

漢ノ孝宣帝ノ時渤海歲々饑へ盜賊並ヒ起ル帝翼遂ヲ  
擧ケ拜シテ渤海ノ太守ト爲ス召シ見テ問フ何ヲ以テ  
盜ヲ治メント遂對テ曰ク海濱遐遠ニシテ聖化ニ沾ハ  
ス其民飢寒ニ困ム而シテ吏之ヲ恤マス陛下ノ赤子ヲ

ノ兵ヲ潢池ノ中ニ盜弄セシムルノミ今臣ヲシテ之ニ  
勝タシメント欲スルカ將々之ヲ安ンセシメントスル  
カ帝曰ク賢良ヲ選用スルハ固ヨリ之ヲ安ンセシメン  
ト欲スルナリ遂曰ク乱民ヲ治ムルハ猶ホ乱繩ヲ治ム  
ル如シ急ニス可ラサルナリ願クハ臣ニ拘ハルニ文法  
ヲ以テスルナク便宜以テ事ニ從フヲ得セシメヨト帝  
之ヲ許ス遂傳ニ乘シ渤海ノ界ニ至ル郡兵ヲ發メ之ヲ  
迎フ遂皆遣リ還シ書ヲ移シテ屬縣ニ敕メ悉ク盜ヲ捕  
フルヲ罷メ諸口ノ田器ヲ持スルモノハ良民トナシ兵  
ヲ持スルモノハ乃チ盜トナス遂單車ニシテ府ニ至ル

盜之ヲ聞キ即時解散ス乃チ倉廩ヲ開キ貧民ニ給與シ  
民刀劍ヲ持スルモノアレハ劍ヲ賣リ牛ヲ買ヒ刀ヲ賣  
リ犢ヲ買ハシメ曰ク何ノ爲ソ牛ヲ帶ヒ犢ヲ佩ヒヨト  
勞來循行ス是ニ於テ郡中皆畜積アリ獄訟止息ス

趙廣漢京兆ヲ治ム

漢ノ孝宣帝ノ時趙廣漢潁川ノ太守ト爲ル潁川ノ俗豪  
傑相朋黨ス廣漢鉅筭ヲ爲リ吏民ノ投書ヲ受ケ相告訐  
セシム姦黨散落シ盜賊發スルヲ得ス是レニ由テ入テ  
京兆ノ尹ト爲ル尤モ善ク鈎距ヲ爲シ以テ其情ヲ得ル  
閭里銖兩ノ姦モ皆之ヲ知ル姦ヲ發シ伏ヲ擿ムテ神ノ

如ク京兆政清シ長老傳フ漢興テヨリ京兆ヲ治ムルモ  
ノ能ク及フナシト後チ人アリ上書シテ言ク廣漢私怨  
ヲ以テ人ヲ論殺スト廷尉ニ下ス吏民闕ヲ守テ號泣ス  
ル者數萬人竟ニ坐シテ要斬セラル廣漢廉明ニシテ豪  
強ヲ威制ス小民職ヲ得テ百姓追思シテ之ヲ歌フ

尹翁歸扶風ヲ治ム

漢ノ孝宣帝ノ時尹翁歸東海ノ太守ト爲リ廷尉于定國  
ニ過キ辭ス定國邑子ヲ託セント欲ス語ル終日竟ニ敢  
テ見ヘシメス曰ク此レ賢將ナリ汝事ニ任ヘス又干ス  
ニ私ヲ以テスヘカラスト治郡ノ高第ヲ以テ遂ニ入テ



右扶風ト爲ル廉平ヲ選用シ以テ右職ト爲ス接待必ラス禮ヲ以シ好惡之ヲ同フス其民ヲ治ルヤ小弱ニ緩ニシテ豪強ニ急ニス治課常ニ三輔ノ最タリ

魏相匈奴ヲ伐ツヲ諫ム

漢ノ孝宣帝元康二年匈奴ノ衰弱ニ因リ兵ヲ出シ其右地ヲ撃チ復タ西域ヲ擾タサシメント欲ス魏相諫メテ曰ク臣聞ク亂ヲ救ヒ暴ヲ誅スル之ヲ義兵ト云フ兵義アルモノハ王タリ敵己レニ加ヘ已ムヲ得スシテ起ルモノ之ヲ應兵ト謂フ兵應スルモノハ勝ツ小故ヲ争ヒ恨ミ憤怒ニ忍ヒサルモノ之ヲ忿兵ト云フ兵忿ル

モノハ敗ル人ノ土地貨幣ヲ利スルモノ之ヲ貪兵ト云フ兵貪ルモノハ破ル國家ノ六ヲ恃ミ人民ノ衆キニ矜リ威ヲ敵ニ見サント欲スルモノ之ヲ驕兵ト謂フ兵驕ルモノハ滅フ間者匈奴未タ邊境ヲ犯スアラス今兵ヲ起シ其地ニ入ラント欲ス臣愚ニソ此兵何ノ名アルヲ知ラサルナリ今年計ルニ子弟ノ父兄ヲ殺シ妻ノ夫ヲ殺スモノ二百二十二人此レ小變ニアラス左右憂ヘス乃チ兵ヲ發シ織芥ノ忿ヲ遠夷ニ報セント欲ス殆ント孔子ノ謂ハユル吾レ季孫ノ憂ヒハ顓臾ニ在スシテ蕭牆ノ内ニ在ルナリ帝相ノ言ニ從ヒ師ヲ還ス

二疏ノ致仕

漢ノ孝宣帝元康三年太子ノ大傅疏廣兄ノ子少傅疏受ニ謂ツテ曰ク吾レ聞ク足ルヲ知レハ辱メラレス止マルヲ知レハ殆フカラスト今官成リ名立ツ此ノ如シ去ラスンハ懼ラクハ後悔アラント俱ニ上疏シ骸骨ヲ乞フ帝之ヲ許シ黄金ヲ加賜ス公卿故人祖道ヲ設ケ東門外ニ供張ス送ルモノ車數百輛道路觀ルモノ皆曰ク賢ナル哉二太夫ト既ニ歸リ日ニ金ヲ賣リ供具セシメ族人故舊賓客ヲ請ヒ相ヒ與ニ娛樂ス或人子孫ノ爲メニ産業ヲ立ツルヲ勸ム廣曰ク吾豈ニ老悖シテ子孫ヲ念

ハサランヤ顧フニ舊田廬アリ衣食凡人ト齊シ今之ヲ增益スル但子孫ニ怠惰ヲ教ユルノミ賢ニシテ財多ケレハ其志ヲ損シ愚ニシテ財多ケレハ其過チヲ益ス且ツ夫レ富ハ衆ノ怨ミナリ吾レ既ニ以テ子孫ヲ教化スルナシ其過チヲ益シテ怨ミヲ生スルヲ欲セスト族人悅服ス

趙充國ノ屯田

漢ノ孝宣帝神爵元年先零諸羌ト畔ク帝後將軍趙充國ニ問ハシム誰レカ將タルヘキモノゾト充國時ニ年七十餘對ヘテ曰ク老臣ニ踰ユルナシト復々問フ將軍羌

虜ヲ度ル如何シ當サニ幾人ヲ用ユヘキ充國曰ク百聞  
 ハ一見ニ如カス兵ハ遙カニ度リ難シ願クハ金城ニ至  
 リ圖シテ方畧ヲ上ツラント乃チ金城ニ至リ屯田ノ奏  
 ナ上ル願クハ騎兵ヲ罷メ步兵萬餘ヲ留メ分テ要害ノ  
 處ニ屯シ兵ヲ出サスノ留メテ田セント便宜十二事ヲ  
 條シ之ヲ奏ス奏スル毎ニ輒チ公卿ニ下シ議セシム初  
 ヲハ其計ヲ是トスルモノ什ニ三中ハ什ニ五最後ニハ  
 什ニ八魏相其計ヲ任シ必ス用ユヘシト帝之ニ從フ  
 魏相丙吉ノ相業

漢ノ孝宣帝ノ時魏相丞相トナル故事ニ上書スルモノ

ハ皆二封ヲ爲リ其一ヲ副ト曰フ尙書ヲ領スルモノ先  
 ツ副ヲ發キ言フ所善カラサレハ屏去シテ奏セス霍光  
 薨シテヨリ相即チ白フシテ副ヲ去リ以テ壅蔽ヲ防ク  
 丞相タルニ及ヒ好ンテ漢ノ故事及ヒ便宜ノ章奏ヲ觀  
 テ數々之ヲ條シ請フテ施行ス掾史ニ敕シ事ヲ郡國ニ  
 案セシム及ヒ休告シテ家ヨリ還リテ府ニ至レハ輒チ  
 四方ノ異聞ヲ白フサシメ以テ之ヲ奏ス御史大夫丙吉  
 ト心ヲ同フシ政ヲ輔ク上皆ナ之ヲ重シス相薨シ吉代  
 ツテ丞相トナル吉寛大ヲ尙ヒ禮讓ヲ好ム嘗テ出ツル  
 非群鬪死傷スルモノニ逢フテ問ハス牛ノ喘クニ逢フ

テ牛ヲ逐フテ行クニ幾里ナルト問フ或人吉カ問ヲ失  
フテ譏ル吉カ曰ク民ノ鬪フハ京兆ノ當サニ禁スヘキ  
所ナリ宰相ハ細事ヲ親カラセス當サニ問フヘキ所ニ  
アラサルナリ春ニ方リ未タ熱ス可カラス恐ラクハ牛  
暑キカ故ニ喘クナラン此レ時氣ノ節ヲ失フナリ三公  
ハ陰陽ヲ調フ職トシテ當サニ憂フヘシト人以テ大體  
ヲ知ルト爲ス

韓延壽左馮翊ヲ治ム

漢ノ孝宣帝ノ時燕人韓延壽ナルモノアリ吏トナリ古  
ノ教化ヲ好ム潁川ノ大守ヨリ入テ左馮翊ト爲ル民ニ

昆弟與ニ田ヲ争ヒ自ラ訟フルモノアリ延壽大ヒニ之  
ヲ傷ミ閤ヲ閉チ過チヲ思フ訟フルモノ各悔ヒ田ヲ以  
テ相ヒ移シ敢テ復タ争ハス郡中翕然トシテ相ヒ敕厲  
ス恩信周偏ニシテ復タ詞訟アルナシ民吏其至誠ヲ推  
シ欺給スルニ忍ヒス五鳳元年事ニ坐セラレ棄市セラ  
ル百姓流涕セサルモノナシ

黃霸潁川ヲ治ム

漢ノ孝宣帝ノ時黃霸潁川ノ大守ト爲ル吏民神明ニシ  
テ欺ク可カラスト稱ス教化ヲカメ誅罰ヲ後ニス長史  
許丞老ヒテ聾ヲ病ム督郵白フシテ之ヲ逐ハント欲ス

百十二  
霸ノ日ク許丞ハ廉吏ナリ老ヒタリトイヘ正尚ホ能ク  
拜起ス重聽スルモ何ソ傷ン數々長吏ヲ易ヘハ故ヲ送  
リ新ヲ迎フルノ費ヘ及ヒ姦吏因縁シ簿書ヲ絶チ財物  
ヲ盜ミ公私ノ費耗甚タ多カラシ易ユル所ノ新吏又々  
未タ必ラスシモ賢ナラス或ヒハ其故ニ如カス徒ニ相  
益シテ亂ヲ爲サン凡ソ治道ハ其ノ太甚シキモノヲ去  
ルノミト覇外寬ニ内明ナルヲ以テ吏民ノ心ヲ得タリ  
戸口歲ゴトニ増シ治天下ノ第一タリ竟ニ丙吉ニ代テ  
丞相トナル覇ノ材民ヲ治ムルニ長ス相ト爲ルニ及ン  
テハ功名郡ヲ治ムル時ヨリ損セリ

光祿勳揚惲ヲ殺ス

漢ノ孝宣帝五鳳四年前キノ光祿勳揚惲ヲ殺ス惲廉潔  
ニシテ私ナシ人上書シテ惲妖惡ノ言ヲ爲スト告ク免  
シテ庶人ト爲ス惲家居シ産業ヲ治メ財ヲ以テ自ラ娛  
ム其友孫會宗書ヲ與ヘテ爲メニ言フ大臣廢退セラ  
ル當サニ門ヲ闔チ惶懼シ憐ムヘキノ意ヲ爲セ産業ヲ治  
メ賓客ニ通シ稱譽アルヘカラスト惲報シテ曰ク過チ  
大ニシテ行ヒ虧ク當サニ農夫トナリ以テ世ヲ沒スヘ  
シ田家作苦歲時伏臘羊ヲ烹テ羔ヲ魚キ斗酒自ラ勞フ  
酒後ニ耳熱シ天ヲ仰キ缶ヲ拊テ鳴々ト呼フ其詩ニ曰

ク彼ノ南山ニ田クル蕪穢シテ治ラスニ頃ノ豆ヲ種ユ  
落テ其トナル人生行樂センノミ富貴ヲ待ツ何レノ時  
ソ淫荒度ナクシテ其不可ヲ知ラサルナリト人上書ス  
憚驕奢ニシテ悔ヒスト廷尉ニ下ル會宗ニ報スル所ノ  
書ヲ案得ス帝見テ之ヲ惡ミ大逆無道ヲ以テ要斬セラ  
ル

張敞京兆ヲ治ム

漢ノ孝宣帝甘露元年公卿奏ス京兆ノ尹張敞ハ憚ノ黨  
友ナリ宜シク位ニ處ク可カラスト帝敞ノオヲ惜ミ其  
奏ヲ寢ム敞掾ノ絮舜ヲシテ案驗スル所アラシム舜私

カニ其家ニ歸リ曰ク五日ノ京兆ノミ安ンソ能ク復タ  
事ヲ案セント敞之ヲ聞キ即チ舜ヲ收メテ獄ニ繫キ竟  
ヒニ其レヲ死ニ致ス舜ノ家人尸ヲ載セ以テ告ク帝免  
シテ庶人ト爲ス敞上書シテ印綬ヲ上リ亡命スル一歲  
餘京師枹鼓數々警ム帝敞ノ能ヲ思ヒ復々之ヲ召シ冀  
州ノ刺史トナス

于公ノ陰德

漢ノ孝宣帝甘露三年于定國丞相ト爲ル定國ノ父于公  
ナルモノ嘗テ獄吏ト爲ル東海ニ孝婦アリ寡居シテ嫁  
セス以テ其姑ヲ養フ姑年老ヒ婦ノ嫁ヲ妨クルヲ以テ

自經シテ死ス姑ノ女アリ婦迫テ其母ヲ死スト告ク婦  
 辨スル能ハズ自ラ誣伏ス于公之ヲ争ヘ得ル能ハス  
 孝婦死ス東海枯旱スル一三年後ノ太守來ル公其故ヲ  
 言フ太守孝婦ノ冢ヲ祭ル遂ニ雨フル于公獄ヲ治メテ  
 陰德アリ嘗テ門閭ヲ大ニシ駟馬ノ車ヲ容ルヘカラシ  
 ム曰ク吾カ後世必ラス興ルモノアラント于定國地節  
 元年ヲ以テ廷尉トナル朝廷之ヲ稱シテ曰ク張釋之廷  
 尉ト爲リ天下冤民ナシ于定國廷尉トナリ民自ラ以テ  
 冤トセスト是ニ至リ御史大夫ヨリ黃霸ニ代ル  
 宦者恭顯蕭望之ヲ殺ス

漢ノ孝元帝初元二年蕭望之周堪及ヒ宗正劉更生ヲ獄  
 ニ下ス皆免シテ庶人トナス時ニ史高外屬ヲ以テ尙書  
 ノ事ヲ領ス望之堪之レニ副タリ二人ハ帝ノ師傅ナリ  
 數々治亂ヲ云ヒ正事ヲ陳ス更生ヲ給事中ニ選ヒ侍中  
 金敞ト並ヒニ左右ニ拾遺タリ四人心ヲ同フシテ謀議  
 ス史高ハ位ニ充ルノミ是レニ由テ望之ト隙アリ中書  
 令弘恭僕射石顯ナルモノ宣帝ノ時ヨリ樞機ヲ典ル元  
 帝ノ位ニ即クニ及ンテ疾ヒ多シ顯ノ中人ニシテ外黨  
 ナキヲ以テ委スルニ政事ヲ以テス貴幸朝ヲ傾ク望之  
 等外戚許史ノ放縱ナルヲ患ヒ又恭顯ノ權ヲ擅ニスル

ナ疾ミテ上言ス宜シク中書ノ宦官ヲ罷メ古ノ刑人ヲ  
 近ケサルノ義ニ應セヨト元帝從フアマハス恭顯奏ス  
 望之ト堪ト更生トハ朋黨シテ相稱譽シ數々大臣ヲ譖  
 シ親戚ヲ毀離シ以テ不忠ヲ爲サントス上ヲ誣ヒ不道  
 ナリ請フ謁者ヲシテ召シテ廷尉ニ致サント時ニ帝初  
 テ位ニ即キ召シテ廷尉ニ致スノ即チ獄ニ送ルユヘン  
 ナルヲ省セス其奏ヲ可ナリトス後チ帝堪更生ヲ召ス  
 左右曰ク獄ニ繫ケリト帝大ヒニ驚キ曰ク但々廷尉ノ  
 問ノミニアラスヤト出シテ事ヲ視セシム恭顯高ヲシ  
 テ帝ニ説カシメ竟ヒニ皆罷免ス後チ帝復々堪更生ヲ

徴シ中郎ト爲シ且ツ望之ヲ以テ相ト爲シトス恭顯許  
 史皆目ヲ側ツ望之カ素ヨリ高節ニシテ詘辱セサルヲ  
 知ル建白シテ曰ク望之過チヲ悔ヒ罪ニ服セス深ク怨  
 望ヲ懷キ自ラ以ヘラク師傅ニ託ス終ニ坐セラレスト  
 頗ル望之ヲ獄ニ屈シテ其快々ノ心ヲ塞クニアラサレ  
 ハ則チ聖朝以テ恩德ヲ施スヲナシト帝曰ク太傅元ヨ  
 リ剛ナリ安ソ肯テ吏ニ就ン顯等曰ク人命ハ至重ナ  
 リ望之ノ坐スル所ハ語言ノ薄過ナリ故ニ之ヲ召セハ  
 來ラン必ラス憂フル所ナシト謁者ヲ望之ヲ召サシ  
 メ因テ急ニ執金吾ノ軍騎ヲ發シテ馳テ其第ヲ圍マシ



ム望之鳩ヲ飲テ自殺ス

京房易ヲ學テ身ヲ亡ス

漢ノ孝元帝建昭二年魏郡ノ太守京房ヲ殺ス房易ヲ焦延壽ニ學フ延壽嘗テ曰ク我カ道ヲ得テ以テ身ヲ亡スモノハ京生ヲラシト京房後チ郎ト爲リ屢々災異ヲ言フ驗シアリ嘗テ宴見シテ事ヲ言フ其意石顯ヲ指ス顯奏シテ之ヲ出シ尋テ徵シテ獄ニ下シ棄市ス顯威權日々盛ナリ中書僕射牢梁少府五鹿充宗ト結ヒテ黨友タリ諸ノ附倚スルモノ皆寵位ヲ得タリ民之ヲ歌フテ曰ク牢カ石カ五鹿ノ客カ印何ソ纍々タリ綬若々タルヤ

ト

朱雲ノ直諫

漢ノ孝成帝永始四年故ノ槐里ノ令朱雲上書ソ見ユルヲ求ム願クハ尙方ノ斬馬劍ヲ賜ヒ佞臣一人ノ頭ヲ斷リ以テ其餘ヲ勵サント上問フ誰ソヤ對テ曰ク安昌侯張禹ナリト張禹帝ノ師傅ヲ以テ帝ノ信愛ヲ受ケ大政ニ參與ス時ニ王氏外戚ノ親ヲ以テ政ヲ專ラニス吏民多ク上書シテ言フ災異ハ王氏ノ致ス所ナリト上禹カ第二至リ左右ヲ屏ケテ親ラ以テ禹ニ示ス禹自ラ年老ヒ子孫ノ弱キヲ見テ王氏ノ爲メニ怨マレントテ恐

帝ニ謂ツテ曰ク春秋日食地震或ハ諸侯相殺シ夷狄  
 中國ヲ侵スカ爲メナラン災變ノ意深遠ニシテ見難シ  
 新學小生道ヲ亂リ人ヲ誤ル信用スルナカルヘシト帝  
 方サニ禹ヲ信愛ス是ニ由テ復々王氏ヲ疑ハス雲ノ上  
 書スルヤ上大ニ怒テ曰ク小臣下ニ居リ師傅ヲ廷辱ス  
 罪死赦サスト御史雲ヲ將イテ下ル雲殿檻ヲ樊ツ檻折  
 ル雲呼テ曰ク臣下モ龍逢比干ニ從ヒ地下ニ遊フヲ  
 得ハ足ラン未タ聖朝何如ヲ知ラサルノミト左將軍辛  
 慶忌頭ヲ叩テ血ヲ流シ之ヲ争フ上ノ意乃チ解ク後チ  
 檻ヲ治ムルニ及ヒ上ノ曰ク易ユル勿レト因テ之レヲ

輯メテ以テ直臣ヲ旌ス

王莽位ヲ篡フ

王莽ハ王曼カ子ナリ孝元皇后ノ兄弟八人アリ獨リ曼  
 早ク死シ侯タラス莽幼ニシテ孤ナリ群兄弟皆ヲ將軍  
 ナリ五侯ノ子時ノ侈靡ニ乘シ輿馬聲色ヲ以テ佚遊シ  
 テ相ヒ高フル莽節ヲ折リ恭儉ヲ爲シ身ヲ勤メ博ク學  
 フ被服儒生ノ如シ外英俊ニ交ハリ内諸父ニ事ヘテ曲  
 サニ禮意アリ孝成帝ノ時新都侯ニ封セラル後大司馬  
 トナル爵位益々尊ク節操愈謙ナリ虚譽隆洽其諸父ヲ  
 傾ク遂ニ漢ノ政ヲ得タリ孝哀帝崩シ孝平帝ヲ迎立ス

太皇太后王氏朝ニ臨ミ莽大司馬ヲ以テ政ヲ秉ル百官  
己レヲ總ヘテ聽ク元始元年莽ヲ安漢公ト爲シ九錫ヲ  
加フ莽帝ニ椒酒ヲ上リ毒ヲ置ク帝崩ス太皇太后詔シ  
テ宣帝ノ玄孫嬰ヲ徵シ皇太子トナシ號シテ孺子嬰ト  
日フ莽攝ニ居リ祚ヲ踐ム贊スルニ假皇帝ト云フ民臣  
ハ之ヲ攝皇帝ト日フ孺子嬰ノ初始元年王莽眞天子ノ  
位ニ即キ國ヲ新ト號シ漢ノ太皇太后ヲ更號シテ新室  
ノ文母太皇太后ト云フ

楊雄ノ畧傳

楊雄字ハ子雲漢ノ孝成帝ノ世詞賦ヲ奏スルヲ以テ郎

ト爲リ黃門ニ給事タリ三世マテ官ヲ徙サレヌ莽カ篡  
フニ及ンテ耆老久次ト云ヲ以テ轉シテ太夫ト爲ル嘗  
テ太玄法言ヲ作り卒章ニ莽カ功德ヲ稱シテ伊周ニ比  
ス後又劇秦美新ノ文ヲ作り以テ莽ヲ頌ス劉棻嘗テ雄  
ニ從テ奇字ヲ學フ棻ノ事ニ坐シテ誅セラル、ヤ辭雄  
ニ連及ス時ニ雄書ヲ天祿閣上ニ校ス使者來テ之ヲ收  
ヘント欲ス雄閣上ヨリ自ラ投下ス莽詔シテ問フ勿  
ラシム孺子嬰天鳳五年ニ至テ死ス

王莽ノ滅亡

王莽已ニ漢ノ天下ヲ篡ヒ帝位ニ即キ官名及ヒ地界ヲ

更定シ貨錢ヲ改メ田制ヲ變シ五均司市錢府等ノ官ヲ設ケ以テ貢賦ノ法ヲ立テ政令煩多ナリ農商業ヲ失ヒ食貨俱ニ廢シ民市道ニ涕泣スルニ至ル四方囂然謳吟シテ漢ヲ思フ久シ時ニ歲旱蝗アリ人相ヒ食ミ遠近兵起ル隗囂公孫述及ヒ漢ノ宗室劉縯劉秀等皆莽ヲ討ス初メ莽五石ノ銅ヲ以テ威斗ヲ鑄ル北斗ノ狀ノ如シ以テ衆兵ヲ壓勝セント欲シ出入ニ人ヲシテ之ヲ負ヒ以テ行カシム漢兵已ニ宮ニ入ルニ及ヒ猶ホ斗柄ニ從ヒ坐シテ日ク天德ヲ予ニ生ス漢兵其レ予ヲ如何セント遂ニ漸臺ニ斬ラル軍人其身ヲ分チ節解シテ之レヲ鬱

ス莽位ヲ纂フテヨリ亡ブルニ至ルマテ凡テ十五年

### 東漢ノ治亂興亡

世祖光武皇帝兵ヲ起シテ王莽ヲ討滅シ王郎及ヒ赤眉ノ諸賊ヲ平ケ隴右ノ隗囂蜀ノ公孫述ヲ亡シ以テ漢業ヲ恢復シ帝位ニ即ク其治ヲ爲スヤ政體ヲ明慎シ權綱ヲ總攬シ時ヲ量リ力ヲ度リ舉トシテ過事無シ匈奴數々和親ヲ求ム天下ヲ理ムルニ柔道ヲ以テス蜀平テ後ハ警急ニ非ラサレハ未タ嘗テ軍旅ヲ言ハス玉門關ヲ閉チ西域ヲ謝絶シ功臣ヲ保全シ群臣ヲ撫恤ス賊罪ニ於テ貸ス所ナシ當時ノ州牧郡守縣令皆良吏ナリ尤モ

高節ヲ重シス處士周黨嚴光等ノ不賓ノ士アリ天下未  
 タ平カサルニ方テ帝已ニ文治ニ志アリ首トシテ大學  
 ナ起シ古典ヲ稽式シ禮樂ヲ修明ス粲然タル文物述フ  
 可シ位ニ在ルト三十三年身太平ヲ致ス孝明帝ニ至リ  
 復タ西域ニ通ス匈奴又タ邊ニ寇ス帝性偏察ニシテ好  
 テ耳目ヲ以テ隱發シテ明ト爲ス公卿大臣數々詆毀セ  
 ラル然レモ光武ノ制度ヲ遵奉シテ更變スルヲ無シ后  
 妃ノ家侯ニ封セラレ政ニ預ルヲ得ス當時ノ吏其人  
 ナ得テ民其業ヲ樂シム遠近畏服シ戶口滋殖ス孝章帝  
 ノ時北匈奴五十八部來降ス帝明帝察々ノ後ニ繼テ人

ノ苛切ヲ厭フヲ知リ事實厚ニ從フ之ヲ文ルニ禮樂  
 ナ以テス賢ヲ簡ミ能ヲ用ヒ州郡人ヲ得タリ徭ヲ平ケ  
 賦ヲ簡ニシ忠恕ノ長者政ヲ爲シ帝ノ世ヲ終ルマテ民  
 其慶ニ賴ル孝和帝立チ外戚竇氏事ヲ用ヒ父子兄弟朝  
 廷ニ充滿ス逆謀アリ帝宦者鄭衆ト議ヲ定メ之ヲ平ラ  
 ク而シテ宦官權ヲ用ユル此レヨリ始マル漢業漸ク衰  
 ヘタリ孝殤帝ヲ歷テ孝安帝ニ至リ外戚鄧氏政ヲ專ニ  
 ス帝崩シ皇后閻氏朝ニ臨ミ閻顯ト章帝ノ孫北鄉侯懿  
 ナ迎ヘテ位ニ嗣カシム宦者孫程等顯ヲ誅シ閻后ヲ遷  
 シ濟陰王ヲ迎立ス是ヲ孝順帝ト爲ス孝順帝立チ宦官

權ヲ握リ而シテ外戚梁氏專恣ナリ帝徒ラニ手ヲ拱シテ爲スヲナシ孝冲帝位ニ在ルヲ久シカラス孝質帝梁冀ノ弑スル所ト爲ル孝桓帝立チ宦官ト謀テ梁氏ヲ殺ス是ヨリ宦官權ヲ專ハラニシ賢者ヲ忌害シ清流ヲ禁錮シ以テ孝靈帝ニ至ル漢業愈々衰フ而シテ鉅鹿ノ張角沛國ノ曹操相ヒ繼ヒテ起ル既ニシテ袁紹兵ヲ勒シテ諸宦官ヲ捕ヘ少長トナク皆之ヲ殺ス天下是ニ於テカ大ヒニ亂ル孝獻帝ニ至リ群雄奮起シ劉備ハ蜀ニ據リ孫策兄弟ハ吳ニ據リ曹操ハ魏ニ據ル操ノ子丕帝ニ迫テ位ヲ禪ラシメ帝ヲ廢シテ山陽公ト爲ス帝在位三

十一年元年ヨリ二十五年ニ至ルマテハ皆ナ曹操カ政ヲ爲スノ時ナリ漢高祖元年ニ王ト爲リ五年ニ帝トナリシヨリ此ニ至テ二十四世四百二十六年而シテ劉備統ヲ嗣キ吳魏ト衡ヲ争フ是レヲ三國ノ世ト爲ス

劉秀兵ヲ起ス

劉秀字ハ文叔長沙ノ定王發ノ後南頓ノ令欽ノ子ナリ先世侯ニ封セラレ南陽ノ白水郷ヲ以テ舂陵ト爲シ宗族往テ家ス其生ル、ヤ嘉禾一莖九穗ノ瑞アリ故ニ秀ト名ク是ヨリ先キ氣ヲ望ム者アリ舂陵ヲ望ンテ曰ク氣佳ナル哉鬱々葱々然タリト王莽貨ヲ改メテ貨泉ト

曰フ人其字ヲ以テ白水ノ真人ト爲ス秀竟ヒニ白水ヨ  
 リ起ル隆準ニシテ日角アリ尙書ヲ受ケテ大義ニ通ス  
 嘗テ蔡少公ニ過キル少公圖讖ヲ學フ言フ劉秀當サニ  
 天子トナルヘシト或人曰ク國師公劉秀カ秀戯レテ曰  
 ク何ニ由テカ僕ニ非ラサルヲ知ル耶ト王莽漢ヲ篡ヒ  
 新市平林ノ兵起ルニ及ヒ南陽騷動ス宛人李通秀ヲ迎  
 ヘテ兵ヲ起ス秀カ兄縯字ハ伯升慷慨ニシテ大節有リ  
 常ニ憤憤トシテ社稷ヲ復セント欲ス平居家人ノ生業  
 ヲ事トセス身ヲ傾ケ産ヲ破リ天下ノ雄俊ニ交結ス是  
 ニ至テ親客ヲ分チ遣リ諸縣ノ兵ヲ發ス縯自カラ春陵

ノ子弟ヲ發ス皆ナ恐懼シテ亡ケ匿ル曰ク伯升我ヲ殺  
 スト秀カ絳衣大冠セルヲ見ルニ及ンテ驚テ曰ク謹厚  
 ナル者モ亦復々之ヲ爲スト乃チ自ラ安ンス賓客ヲ部  
 署シ諸帥ヲ招キ説ク新市平林下江ノ兵皆ナ來リ會ス  
 兵多クシテ統一スル所ナシ劉氏ヲ立テ、人望ニ從ハ  
 ント欲ス下江ノ將王常縯ヲ立テント欲ス新市平林ノ  
 將帥其威名ヲ憚テ遂ニ更始ヲ立ツ縯ヲ以テ大司徒ト  
 爲ス秀將軍ト爲ル

昆陽ノ戰

劉秀昆陽定陵鄗ヲ徇フ皆ナ之ヲ下ス王莽王邑王尋ヲ

シテ大ヒニ兵ヲ發シテ山東ヲ平ケシム長人巨無霸ヲ以テ壘尉ト爲ス虎豹犀象ノ屬ヲ驅リ以テ兵勢ヲ助ク百餘萬ト號ス旌旗千里絶ヘス諸將兵ノ盛シナルヲ見テ皆走テ昆陽ニ入ル散シ去ラント欲ス秀郾定陵ニ至リ悉ク諸營ノ兵ヲ發ス自ラ步騎千餘ニ將トシテ前鋒ト爲ル尋邑兵數千ヲシテ合戦セシム秀之ヲ奔ラシム首ヲ斬ルト數十級諸將ノ曰ク劉將軍平生ハ小敵ヲ見ルモ怯ル今マ大敵ヲ見テ勇ム甚々怪シム可シト尋邑カ兵却ク諸部共ニ之レニ乘ス連リニ勝テ遂ニ前ム一百ニ當ラサルトナシ秀敢死ノ者三千人ト其中堅ヲ衝

ク尋邑カ陣亂ル漢兵銳ニ乘シテ之ヲ崩ス遂ニ尋ヲ昆陽ニ殺ス城中守ル者モ亦鼓譟シテ出ツ中外勢ヲ合ス呼聲天地ヲ動カス莽カ兵大ヒニ潰ユ走ル者相ヒ踐ム伏尸百餘里會々大雷風アリテ屋瓦皆ヲ飛フ雨ノ下ルト注クカ如シ虎豹皆ヲ股戦ス潢川ニ溺死スル者萬數關中之ヲ聞テ震恐ス海内ノ豪傑響應ス皆ヲ莽カ牧守ヲ殺シテ自ラ將軍ト稱シ漢ノ年號ヲ用フ旬月ニシテ天下ニ徧シ續カ兄弟威名日ニ盛シナリ更始續テ殺ス秀敢テ喪ヲ服セス飲食言笑ス惟々枕席ニ涕泣スル處アリ更始慙チテ秀ヲ大將軍ニ拜シ武信侯ニ封ス未タ



幾ハクナラスシテ秀ヲ以テ大司馬ノ事ヲ行ハシメ河  
北ヲ徇ヘシム

鄧禹策ヲ杖キ劉秀ニ歸ス

劉秀ノ河北ヲ徇フルヤ南陽ノ鄧禹策ヲ杖ツキ秀ヲ追  
フテ鄴ニ及フ秀曰ク我レ封拜ヲ專ハラニスルヲ得タ  
リ生遠ク來ル寧ロ仕ント欲スルカ禹曰願ハサルナリ  
但願クハ明公威德四海ニ加ハリ禹其尺寸ヲ効スヲ  
得テ功名ヲ竹帛ニ垂レンノミ更始ハ常オナリ帝王ハ  
大業ナリ任スル所ニ非ルナリ明公英雄ヲ延攬シ務テ  
民ノ心ヲ悅シムルニ如クハナシ高祖ノ業ヲ立テ萬民

ノ命ヲ救ハ、天下ハ定ムルニ足ラサルナリ秀大ヒニ  
悅ヒ禹ヲシテ常ニ中ニ宿止セシメ與ニ計議ヲ定ム

劉秀王郎ヲ討ス

邯鄲ノ卜者王郎詐テ成帝ノ子子興ト稱シ邯鄲ニ入テ  
帝ト稱ス幽冀ヲ徇下ス州郡響ノ應スルカ如シ秀北ノ  
方薊ヲ徇フ上谷ノ大守耿況カ子奔馳テ盧奴ニ至テ上  
謁ス秀曰是レ我カ北道ノ主人ナリト薊城反シテ王郎  
ニ應ス秀趣カニ城ヲ出テ晨夜ニ南ニ馳セ蕪葦亭ニ至  
ル馮異豆粥ヲ上ル饒陽ニ至テ食ニ乏シ下曲陽ニ至ル  
王郎カ兵後口ニ在リト聞テ滹沱河ニ至ル南宮ニ至ツ

テ大風雨ニ遇ヒ道傍ノ空舎ニ入ル馮異薪ヲ抱キ鄧禹  
火ヲ爇ク秀竈ニ對ヒ衣ヲ燎ル異復タ麥飯ヲ進ム下博  
城ノ西ニ至ル惶惑シテ之ク所ヲ知ラス白衣ノ老人ア  
リ指テ曰ク努力セヨ新都ハ長安ノ爲メニ城守ス此ヲ  
去ルヲ八十里ト秀即チ馳セテ之レニ赴ク時ニ郡縣皆  
ナ已ニ王郎ニ降ル獨リ信都ノ太守任光和戎ノ太守邳  
彤肯ンセス光出テ、秀至ルト聞テ大ニ喜フ彤モ亦來  
リ會ス旁縣ヲ發シ精兵ヲ得テ檄ヲ移シ王郎ヲ討ス郡  
縣還テ復タ響應ス秀兵ヲ引テ廣阿ヲ拔ク耿弇上谷漁  
陽ノ兵ヲ以テ行ク々郡縣ヲ定ム秀ニ廣阿ニ會ス進ン

テ邯鄲ヲ拔テ王郎ヲ斬ル吏民ノ郎ト交ル書數千章ヲ  
得タリ秀諸將ヲ會シテ之ヲ燒テ曰ク反側ノ子ナシテ  
自カラ安ンセシメント更始使ヲ遣ハシ秀ヲ立テ、蕭  
王ト爲ス

劉秀位ニ即ク。

劉秀既ニ王郎ヲ討シ燕趙ヲ徇ヘ尤來大槍等ノ諸賊ヲ  
平ケ還テ中山ニ至ル諸將尊號ヲ上ル許サス南平棘ニ  
至テ固ク請フ許サス耿純カ曰ク士大夫親戚ヲ捐テ土  
壤ヲ棄テ、大王ニ矢石之間ニ從フモノハ固ヨリ龍鱗  
ヲ攀チ鳳翼ニ附テ以テ其志ス所ヲ成サント望ムノミ

今時ヲ留メテ衆ニ逆フ恐ラクハ望ミ絶ヘ計ト窮ラハ  
則チ去歸ノ思アラシク大衆一タヒ散セハ復タ合セ難シ  
馮異モ亦言フ宜シク衆議ニ從フ可シト會マ儒生強華  
ナルモノ關中ヨリ赤伏符ヲ奉シ來リ曰ク劉秀兵ヲ發  
シテ不道ヲ捕フ四夷雲ノ集ルカ如ク龍野ニ鬪フ四七  
ノ際火ヲ主ト爲スト群臣因テ復タ請フ乃チ皇帝ノ位  
ニ鄗南ニ即ク建武ト改元ス

光武帝赤眉ノ賊ヲ平ラケ

赤眉ノ賊樊崇等漢ノ宗室劉盆子ヲ立テ帝トナシ西ノ  
方長安ヲ攻ム光武將軍鄧禹等カ兵ヲシテ關中ニ入ラ

シム關中未タ定マラス鄧禹衆ヲ引テ而シテ西ス百萬  
ト號ス至ル所車ヲ停メ節ヲ駐メテ百姓ヲ勞來ス垂髻  
戴白車下ニ滿ツ各關西ニ震フ梅邑ニ至ル久シク兵ヲ  
進メス赤眉大ヒニ掠メテ而シテ出ツ禹乃チ長安ニ入  
ル赤眉モ復タ入ル禹戰ヒ利アラシテ走ル徵サレテ  
京師ニ還ル馮異ヲシテ關ニ入ラシム禹功無キヲ慚チ  
テ異ヲ要シ共ニ赤眉ヲ攻メテ大ヒニ回溪ニ戰フテ敗  
績ス散卒ヲ收メテ壁ヲ堅フス已ニシテ而シテ大ヒニ  
赤眉ヲ崤底ニ破ル璽書異ヲ勞シテ曰ク始メ邈ヲ回溪  
ニ垂ルト雖臣終ニ能ク翼ヲ灑池ニ奮フ之ヲ東隅ニ

失シテ之ヲ桑榆ニ收ムト謂フヘシト赤眉ノ餘衆東ノ  
方宜陽ニ向フ光武軍ヲ勒シテ之ヲ待ツ樊崇劉盆子丞  
相徐宣等ヲ以非テ肉袒シテ降ル光武軍馬ヲ陳シ盆子  
カ君臣ヲシテ之ヲ觀セシム謂ツテ曰ク降ヲ悔ユル  
無キヲ得ンヤ宣叩頭シテ曰ク虎口ヲ去テ慈母ニ歸  
ス誠歡誠喜限り無シト光武曰ク卿ハ所謂鐵中ノ錚錚  
庸中ノ佼佼タル者ナリト各田宅ヲ賜フ

彭寵ノ反

漁陽ノ太守彭寵ナルモノ東漢光武帝ノ王郎ヲ討スル  
時突騎ヲ發シ糧食ヲ轉シテ前後絶ヘス自ラ其功ヲ負

ンテ意望甚々高シ滿ルヲアタハス幽州ノ牧朱浮ナル  
モノアリ書ヲ與ヘテ曰ク遼東ニ豕アリ子ヲ生ム白頭  
ナリ將サニ之レヲ獻セントス道ニシテ群豕ニ遇フ皆  
ナ白シ子ノ功ヲ以テ朝廷ニ論セハ遼東ノ豕ナラント  
帝寵ヲ徵ス寵自ラ疑ヒ遂ニ反ス後チ其奴寵ヲ斬テ以  
テ降ル

光武帝隴右ヲ平ク

隗囂ハ成記ノ人更治ノ初年ヨリ兵ヲ起シ東漢建武ノ  
初ニ至リ天水ニ據リ自ラ西州ノ上將軍ト稱ス囂嘗テ  
馬援ヲシテ成都ニ往キ公孫述ヲ觀セシム援述ト舊交

アリ謂フ手ヲ握テ歡フ平日ノ如クナルヘシト時ニ述  
 帝ト稱スル四年ナリ援已ニ至ル述盛ニ陞衛ヲ陳シ以  
 テ援ヲ延ク援退テ其屬ニ謂テ曰ク天下ノ雌雄未タ定  
 ラス公孫嘯ヲ吐キ國士ヲ迎ヘス反テ邊幅ヲ修飾シ偶  
 人ノ形ノ如シ何ソ久シク天下ノ士ヲ稽ルニ足ランヤ  
 ト因テ辭シテ歸ル鸞ニ謂ツテ曰ク子陽ハ井底ノ蛙ノ  
 ミ意ヲ東方ニ專ハラニスルニ如カスト是ニ於テ鸞援  
 ナシテ書ヲ東ノ方洛陽ニ奉セシム援洛陽ニ到ル良久  
 シテ即チ引キ入ル光武宣德殿南廡ノ下ニ在リ岸幘シ  
 テ迎ヘ笑ツテ曰ク卿二帝ノ間ニ遨遊ス今卿ヲ見ルニ

人ヲシテ大ニ慚チシムト援頓首シテ曰ク當今但タ君  
 ノ臣ヲ擇フノミニアラス臣モ亦タ君ヲ擇フ臣公孫述  
 ト同縣ナリ少シテ相ヒ善シ臣前キニ蜀ニ至ル述陸載  
 シテ後チ臣ヲ進ム臣今遠ク來ル陛下何ソ刺客姦人ニ  
 アラサルヲ知り而シテ簡易是ノ如クナルヤ帝笑フテ  
 曰ク卿ハ刺客ニアラス顧フニ説客ナランノミ援曰ク  
 天下反覆シテ名字ヲ盜ムモノ勝テ數フヘカラス今陛  
 下ヲ見ルニ恢廓大度符ヲ高祖ニ同フス乃ハ帝王ノ  
 自ラ眞アルヲ知ルナリト援歸ル鸞ニ謂ツテ曰ク帝才  
 明勇略ニシテ人ノ敵ニアラサルナリ且ツ心ヲ開キ誠

ヲ見ハシ隱伏スル所ナシ關達ニソ大節多シ畧ホ高祖  
ト同シ經學博覽政治文辨前世比スルナシト鸞曰ク卿  
謂フ高帝ニ如何ンソヤ援曰ク如カサルナリ高帝ハ可  
モナク不可モナシ今光武吏事ヲ好ミ動クフ法度ノ如  
クス又々飲酒ヲ喜マスト鸞懌ヒスシテ曰ク卿ノ言ノ  
如クンハ反テ復々勝レルカト其子ヲ遣ハシ入り侍セ  
シメ以テ質トナス未々幾ナラスシテ反ス後チ援行在  
ニ至ル帝之レヲシテ復々遊説セシメ仍テ鸞ニ書ヲ賜  
フ鸞竟ニ公孫述ニ臣タリ述鸞ヲ立テ、朔寧王トナス  
建武九年帝鸞ヲ征ス援帝前ニアリ米ヲ聚メ山谷ト爲

シ形勢ヲ指畫シ軍ノ從ル處ヲ開示ス帝曰ク虜吾カ目  
中ニアリト遂ニ軍ヲ進ム鸞西域ニ奔ル窮餓シ恚憤シ  
テ卒ス子純降ル隴右悉ク平ク

光武帝蜀ヲ平ク

公孫述ハ茂陵ノ人更始ノ時ヨリ蜀ニ據テ帝ト稱ス國  
ヲ成ト號ス光武帝既ニ隴右ノ隗鸞ヲ平ケ曰ク人ハ自  
ラ足ルトセサルヲ苦シム既ニ隴ヲ得テ復々蜀ヲ望ム  
ト建武十二年大司馬吳漢等ヲ遣ハシ兵ニ將トシ征南  
大將軍岑彭ニ會シテ蜀ヲ伐タシム彭ハ荆門ニ在リ戰  
船ヲ裝テ漢之ヲ罷メント欲ス彭可カス帝彭ニ報シテ

日ク大司馬ハ歩騎ヲ用ユルニ習フテ水戰ヲ曉ラス荆  
門ノ事ハ一ニ惟征南公ヲ重シト爲スノミト彭戰艦並  
ビ進ミ向フ所前ナン述盜ヲシテ詐リ亡奴トナシ彭ニ  
降り彭ヲ刺殺セシム吳漢繼テ進ミ成都ニ至ル述兵ヲ  
引キ出テ戰フ漢擊テ述ヲ殺ス蜀ノ地悉ク平ク

竇融入朝ス

東漢光武帝建武十二年涼州ノ牧竇融河西武威等ノ五  
郡ノ太守ヲ率ヒテ入朝ス融ハ建武ノ初年ヨリ河西ニ  
據ル後使ヲ遣ハシ書ヲ奉セシム帝以テ牧トナス璽書  
ヲ賜フテ日ク議者必ラス任囂カ尉佗ヲ教ヘテ七郡ヲ

制スルノ計アラント書至ル河西皆驚ク以爲ラク天子  
ノ明ハ萬里ノ外ヲ見ルト帝ノ隗囂ヲ征スルハ融五郡  
ノ兵ヲ率ヒテ大軍ト會ス蜀平クルニ及ヒ詔ヲ奉シ朝  
ニ歸ス冀州ノ牧ニ拜セラル

光武帝功臣ヲ全フシ群臣ヲ撫ス

東漢光武帝既ニ天下ヲ平ラケテ後功臣ヲ保全シテ復  
タ兵事ヲ任セス皆列侯ヲ以テ第二就カシム吏事ヲ以  
テ三公ヲ責ム亦タ功臣ヲ以テ吏事ニ任セス諸將皆功  
各ヲ以テ自ラ終ル祭遵先ツ死ス上之ヲ念テ已マズ來  
歛岑彭鋒鏑ニ死ス之ヲ卹ム一甚タ厚シ吳漢賈復帝ノ

世ニ終フ漢ハ軍ニ在テ或ハ戰ヒ利アラサレモ意氣自  
 若タリ帝歎シテ曰ク吳公差ヤ人意ヲ強フス隱タル  
 一敵國ノ若シト師ヲ出ス毎ニ朝ニ詔ヲ受ケテ夕ニ道  
 ニ就ク卒スルニ及ンテ上臨テ言ハント欲スル所ヲ問  
 フ漢曰ク臣愚願クハ陛下慎テ赦スルヲ無ケンノミト  
 復ハ帝ノ兵ヲ起セシ時ヨリ督ト爲ル帝ノ曰ク賈督衝  
 ヲ千里ニ折クノ威アリト嘗テ戰テ傷ヲ被ムル帝驚テ  
 曰ク吾レ嘗テ其敵ヲ輕スルヲ戒ム果シテ然リ吾カ  
 名將ヲ失フト其婦孕メルヲ有リト聞キ曰ク子ヲ生マ  
 シンカ我カ女之ニ嫁セシメン女ヲ生ンカ我子之ヲ娶ラ

シメント其群臣ヲ撫スル毎ニ此ノ如シ

馬援ノ畧傳

馬援字ハ文淵扶風茂陵ノ人少キ時家用ノ足ラサルヲ  
 以テ其兄馬況ニ辭シ邊郡ニ就キ田牧セント欲ス況曰  
 ク汝ハ大才當サニ晚成スヘシ良工ハ人ニ示スニ朴ヲ  
 以テセスト遂ニ北地ニ之キ田牧ス常ニ賓客ニ謂ツテ  
 曰ク丈夫志ヲ立ツ窮シテハ益々堅カルヘク老ヒテハ  
 益々壯ンナルヘシト既ニ富ミ歎シテ曰ク凡ソ産ヲ殖  
 スルハ其能ク振給スルヲ貴フ否ラサレハ守錢虜ノミ  
 ト乃チ盡ク親舊ニ散給ス隴右ノ隗囂士ヲ好ムヲ聞キ



往キ之レニ從フ囂甚々之レヲ敬重ス後チ囂ノ輔クル  
 ニ足ラサルヲ以テ辭シテ東漢光武帝ニ歸ス將ユル所  
 ノ賓客多キヲ以テ上林苑中ニ屯田セント求ム帝之レ  
 ナ許ルス之レヲ久フシテ先零諸羌反ス帝援ヲ擧ケ將  
 軍ト爲シ之レヲ擊タシム援馬成ト深ク入り討撃シテ  
 大ヒニ之レヲ破リ洛陽ニ歸ル建武十七年交趾ノ女子  
 徵側等反ス援伏波將軍ト云ヲ以テ討テ之レヲ平ラク  
 尋ヒテ武陵ノ蠻反ス援又々行ント請フ帝其老ヒタル  
 ナ憇レミ人ナシテ之ヲ覘ハシム援甲ヲ被リ鞍ニ據リ  
 顧盼シテ用ユヘキヲ示ス帝笑ツテ曰ク嬰鏃タル哉是

ノ翁ト乃チ之ヲ遣ル援ノ交趾ニ在ルヤ書ヲ遣リ其兄  
 ノ子ヲ戒シメ曰ク吾レ汝カ曹ノ人ノ過チヲ聞ク父  
 母ノ名ヲ聞ク如クセンヲ欲ス耳ニハ聞クヘキモ口ニ  
 ハ言フヘカラス好テ人ノ長短ヲ議論シ政法ヲ是非ス  
 ルヲ吾カ惡ム所ナリ子孫此ノ行ヒアルヲ願ハス龍伯  
 高ハ敦厚周慎ニシテ謙約節儉ナリ吾レ之ヲ愛重セリ汝  
 カ曹之レニ效ハンヲ願フ杜季良ハ豪俠ニシテ義ヲ好  
 ミ人ノ憂ヲ憂ヒ人ノ樂ミヲ樂ム父ノ喪ニ客ヲ致ス數  
 郡畢ク至ル吾レ亦々之レヲ愛重ス然レモ汝カ曹之レ  
 ニ效フヲ願ハサルナリ伯高ニ效フテ得サレハ猶ホ謹

勅ノ士トナラン所謂ル鵠ヲ刻テ成ラサレハ尙ホ鷺ニ  
 類スルモノナリ季良ニ效フテ得サレハ陷テ天下ノ輕  
 薄子トナラン所謂ル虎ヲ畫テ成ラサレハ反テ狗ニ類  
 スルモノナリト良ノ仇人上書シテ良ヲ告クルニ援ノ  
 書ヲ以テ證トナス良坐シテ官ヲ免セラレ是レヨリ先  
 キ帝ノ婿梁松ナルモノ嘗テ援ヲ候シテ牀下ニ拜ス援  
 自ラ父ノ友ナルヲ以テ答セス松不平ナリ是ニ至テ梁  
 松良ト遊フニ坐シ罪ヲ得ントス援ヲ恨ム援ノ軍壺頭  
 ニ至リ利アラス軍中ニ卒ス松構ヘテ之ヲ陷ル新息侯  
 ノ印綬ヲ收ム援前キニ交趾ニ在テ常ニ薏苡ヲ餌ス軍

還ルニ及ヒ之ヲ一車ニ載ス後チ之ヲ追譖スルモノア  
 リ明珠文犀ナリト帝益々怒ル朱勃ナルモノ上書シテ  
 其ノ冤ヲ訟フ帝ノ意乃チ稍ク解ク

宋弘ノ正直

東漢光武帝用ユル所ノ群臣皆重厚正直ノ士多シ帝ノ  
 姉湖陽公主嘗テ寡居セリ其意宋弘ニ在リ弘入テ見ユ  
 公主屏後ニ坐ス帝曰ク諺ニ云フ富ミテハ交リチ易ヘ  
 貴フシテハ妻ヲ易フト人情カ弘曰ク貧賤ノ交リハ忘  
 ルヘカラス糟糠ノ妻ハ堂ヨリ下サスト帝公主ヲ顧ミ  
 テ曰ク事諧ハスト

董宣ノ強項

東漢光武帝ノ姉湖陽公主ノ蒼頭嘗テ人ヲ殺シ公主ノ家ニ匿ルモノアリ吏捕フルアタハス洛陽ノ令董宣公主ノ出行スルヲ候フ奴驂乗セリ宣叱シテ車ヨリ下シ之ヲ撻殺ス公主入テ訟フ帝大ヒニ怒リ宣ヲ召シ之ヲ捶殺セント欲ス宣曰ク奴ノ人ヲ殺スヲ縱サハ何ヲ以テ天下ヲ治メン臣捶ヲ須タス請フ自殺セント即チ頭ヲ以テ楹ヲ叩ク流血淋漓タリ帝小黃門ヲシテ之ヲ持セシメ頭ヲ叩ヒテ公主ニ謝セシム宣兩手地ニ據リ終ヒニ肯セス帝勅スラク強項令出テヨト錢三十万ヲ賜

フ

光武帝ノ良吏

東漢光武帝ノ時州牧郡守皆良吏ナリ郭伋ナルモノ潁川ニ守タリ帝城ニ近シ帝之ヲ勞シテ曰ク河九里ヲ潤ホス京師福ヲ蒙ルト杜詩ナルモノ南陽ニ守タリ郡民之カ爲メニ語りテ曰ク前ニ召父アリ後チニ杜母アリト張堪ナルモノ漁陽ニ守タリ人ノカ爲メニ語りテ曰ク桑ニ附枝ナク麥穗兩岐アリ張堪政ヲ爲ス樂ミ支ルヘカラスト劉昆ナルモノ江陵ニ令タリ火アリ昆頭ヲ叩キ之ニ向フ風ヲ反シ火ヲ滅ス後チ弘農ニ守タリ虎

北シテ河ヲ渡ル帝問フ何ノ德政ヲ行フテ是ニ至ルヤ  
ト昆曰ク偶然タルノミト帝曰ク長者ノ言ナリト命シ  
テ之レヲ策ニ書セシム

嚴光ノ高節

會稽ノ人嚴光字ハ子陵少クシテ東漢光武帝ト同ク游  
學ス帝ノ位ニ即クニ及ンテ光即チ姓名ヲ變シ隱遁シ  
テ見ハレス帝物色シテ之ヲ齊國ニ得タリ羊裘ヲ衣テ  
澤中ニ釣ル徵サレテ至ルヤ帝即日其館ニ幸ス光臥シ  
テ起ス帝其臥ニ即キ光ノ腹ヲ撫シテ曰ク咄々子陵相  
助ケテ理ヲ爲ス可カラサルカ光乃チ目ヲ張リ曰ク昔

唐堯德ヲ著ス巢父耳ヲ洗フ士固ヨリ志アリ何ソ相迫  
ルニ至ランヤト復タ光ヲ殿ニ延キ舊故ヲ論シ相對ス  
ル累日因ツテ共ニ同ク臥ス光足ヲ以テ帝ノ腹ニ加フ  
明日太史奏ス客星アリ御坐ヲ犯ス甚タ急ナリト帝曰  
ク朕故人嚴子陵ト共ニ臥スノミト諫議大夫ニ拜スレ  
レ肯テ受ケス去テ富春山中ニ畊釣シ壽ヲ以テ終ル

孝明帝ノ明察

東漢ノ孝明帝名ハ陽母ヲ陰氏字ハ麗華ト云帝幼ニシ  
テ穎悟ナリ光武帝州郡ニ詔シテ墾田戸口ノ増減ヲ檢  
覈ス諸郡各々人ヲ遣リ事ヲ奏ス陳留ノ吏ノ牘ヲ見ル

ニ上ニ書アリ之レヲ視ルニ曰ク潁川弘農ハ問フヘシ  
 河南南陽ハ問フヘカラスト帝吏ニ由趣ヲ詰ル吏祇言  
 フ長壽街上ニ於テ之レヲ得タリト帝怒ル陽時ニ年十  
 二幄後ニ在リ曰ク吏郡敕ヲ受ケ墾田ヲ以テ相ヒ方ヘ  
 ント欲スルノミ帝其故ヲ問フ陽曰ク河南ハ帝城ナリ  
 近臣多シ南陽ハ帝郷ナリ近親多シ田宅制ニ踰ユ準ト  
 爲スヘカラスト以テ吏ヲ詰ル吏乃チ首服ス帝大ヒニ  
 之ヲ奇トス郭皇后廢セラレ陰貴人立テ后ト爲リ陽ヲ  
 皇太子ト爲ス竟ニ位ニ即ク

班超西域ニ使ス

東漢光明帝永平十七年復タ西域ノ都護戊巳校尉ヲ置  
 ク初メ耿秉匈奴ヲ伐タント請フ謂フ宜シク武帝ノ西  
 域ニ通シ匈奴ノ右臂ヲ斷ツカ如クスヘシト帝之レニ  
 從フ因テ秉ト竇固トヲ以テ都尉トナシ涼州ニ屯ス固  
 假司馬班超ヲシテ西域ニ使セシム超先ツ鄯善ニ至ル  
 其王之レヲ禮スルヲ甚タ備レリ匈奴ノ使者會マ來ル  
 超ヲ待スル頓カニ踈懈ナリ超吏士三十六人ヲ會シ曰  
 ク虎穴ニ入ラサレハ虎子ヲ得スト虜ノ營ニ奔リ其使  
 及ヒ從士三十餘級ヲ斬ル鄯善ノ一國震怖ス超告クル  
 ニ威德ヲ以テシ復タ虜ト通スル勿ラシム超進ンテ于

竄ニ使ス其王モ亦タ虜ノ使ヲ斬リ以テ降ル是ニ於テ諸國皆子ヲシテ入侍セシム西域復々通ス是ニ至テ都護戊己校尉ヲ置キ分テ西域ニ屯ス

耿恭匈奴ヲ敗ル

東漢孝明帝永平十八年北匈奴戊校尉耿恭ヲ攻ム初メ帝使ヲ南單于ニ遣リ璽綬ヲ授ケシム北匈奴邊ニ寇ス南單于擊テ之ヲ卻ク漢北匈奴ト交使ス南單于之レヲ怨ミ畔カント欲シ密カニ人ヲシテ北匈奴ニ遣リ與ニ交通セシム漢度遼將軍ヲ五原ニ置キ以テ之ヲ防ク已ニシテ漢北匈奴ヲ伐ツ北匈奴モ亦タ邊ニ寇ス是ニ至

リ恭ヲ金蒲城ニ攻ム恭毒藥ヲ以テ矢ニ傳ケ匈奴ニ語リテ曰ク漢家ノ箭ハ神ナリ中ルモノハ異アラント虜創ヲ視ルニ皆沸ク大ヒニ驚ク恭暴風雨ニ乘シテ之レヲ擊ツ殺傷甚タ衆シ匈奴震怖シテ曰ク漢ノ兵ハ神ナリ眞ニ畏ルヘシト乃チ解キ去ル

毛義ノ孝

東漢孝章帝ノ時廬江ノ毛義行義ヲ以テ稱セラル張奉之ヲ侯ス府檄適マ至ル義ヲ以テ安陽ノ令ニ守タラシム義檄ヲ捧ケテ入ル喜ヒ顔色ニ動ク奉心ニ之ヲ賤ンス後チニ義カ母死ス徵避ニ皆至ラス奉乃チ歎シテ曰

ク往日ノ喜ヒハ親ノ爲メニ屈スルナリト帝詔ヲ下シ  
テ之レヲ褒寵ス

班超ノ畧傳

班超ハ酒泉ノ人書生ヨリ起リ筆ヲ投シテ萬里ノ外ニ  
封侯タルノ志アリ相者アリ之レヲ相シテ曰ク生ハ燕  
領虎頭飛テ肉ヲ食フ萬里侯ノ相ナリト超假司馬ヨリ  
西域ニ入ル東漢孝章帝ノ時西域ノ將兵ノ長史ト爲ル  
孝和帝超ヲ以テ西域ノ都護騎都尉ト爲スニ至テ諸國  
ヲ平定ス西域ニアル一三十年功ヲ以テ定遠侯ニ封セ  
ラル永光十四年年老ヒタルヲ以テ上書シテ歸ヲ乞フ

テ曰ク臣敢テ酒泉郡ニ到ルヲ望マス但願クハ生キテ  
玉門關ニ入ラント帝之レヲ許ス任尙代テ都護ト爲ル  
教ヘテ請フ超カ曰ク塞外ノ吏士本ト孝子順孫ニアラ  
ス皆罪過ヲ以テ邊屯ニ徙補セラル而テ蠻夷ハ鳥獸ノ  
心養ヒ難ク敗レ易シ君カ性嚴急ナリ水清ケレハ大魚  
ナシ宜シク蕩佚簡易ナルヘシト禹私カニ人ニ謂テ曰  
ク我レ班君ヲ以テ奇策アルヘシト爲ス今言フ所平々  
タルノミト尙後果シテ邊ノ和ヲ失フ超ノ言フ所ノ如  
シ

虞詡長歌及ヒ武都ヲ治ム

東漢孝安帝位三即幸鄧后仍ホ朝ニ臨ミ鄧騭外戚ヲ以テ大將軍ト爲ル時ニ邊軍多事ナリ鄧騭涼州ヲ棄テ力ヲ北邊ニ并ハセント欲ス郎中虞詡以テ不可ト爲シ曰ク關西ハ將ヲ出シ關東ハ相ヲ出シ烈士武夫ハ多少涼州ヨリ出ツト衆皆ヲ詡ノ議ニ從フ騭其己レニ反スルヲ惡ミ之レヲ陷レント欲ス會マ朝歌ノ賊審季等數千人長吏ヲ攻殺シ州郡禁スル能ハス因テ詡ヲ以テ朝歌ノ長トナス故舊皆詡ヲ吊ス詡カ曰ク盤根錯節ニ遇ハスンハ以テ利器ヲ別ツテ無シ吾カ功ヲ立ツルノ秋ナリト官ニ到ルニ及ヒ壯士ヲ募リ攻劫スルモノヲ上ト

爲シ人ヲ傷フリ偷盜スルモノ之レニ次ク百餘人ヲ收メ得テ賊中ニ入ラシメ誘テ劫掠セシメ兵ヲ伏セテ數百人ヲ殺ス又タ潛カニ貧人ノ能ク縫フモノヲシテ賊衣ヲ備作セシメ綵線ヲ以テ其裾ヲ縫フ市里ニ出ツルモノアレハ輒チ之レヲ禽ニス賊驚ロキ散ス縣境皆チ平ク後チ鄧后詡カ將帥ノ畧アルヲ知リ以テ武都ノ太守ト爲ス叛羌數千詡ヲ峭谷ニ遮ル詡停テ進マス兵ヲ請フテ其到ルヲ須チ然ル後發セント宣言ス羌之レヲ聞キ傍縣ヲ分鈔ス詡其散スルニ因リ日夜道ヲ進ミ軍士ヲシテ各兩竈ヲ作ラシメ日ニ之レヲ増倍ス或人曰



ク孫臏ハ竈ヲ滅ス而ルヲ君ハ之レヲ増ス兵法ニ日ニ  
 行クヲ三十里ニ過キス而ルヲ今日ニ且サニ二百里ヲ  
 ラントスルハ何ソヤ詔曰ク虜ハ衆多ナリ吾カ兵ハ少  
 シ徐ニ行カハ爲メニ及ハレ易シ速カニ進メハ彼レ測  
 ル能ハス虜吾カ竈ノ日ニ増スヲ見ハ郡兵來リ迎フト  
 謂ハン衆多ニシテ行クヲ速カナラハ必ラス我レヲ追  
 フニ憚カラシ孫臏ハ弱ヲ示ス吾レハ今強ヲ示ス勢同  
 シカラサレハナリト既ニ到ル郡ノ兵ハ三千而シテ羗  
 ハ萬餘赤亭ヲ攻メ圍ムヲ數十日詔命ス強弩發スル勿  
 レ潜カニ小弩ヲ發セヨト羗弩ノ力ノ弱キヲ侮リ兵ヲ

并セテ急ニ攻ム是ニ於テ二十ノ強弩ヲシテ與ニ一人  
 ナ射ラシム發シテ中ラサルナシ羗大ニ驚ク詔因テ城  
 ナ出テ奮撃ス明日悉ク其兵ヲ陳シ東郭門ヨリ出テ北  
 郭門ニ入ラシメ衣服ヲ貿易シ回轉スルヲ數周羗其數  
 ナ知ラス相恐動ス詔潜カニ淺水ニ於テ伏テ設ケ其走  
 路ヲ候フ羗果シテ大ニ奔ル因テ掩ヒ撃テ大ニ之レヲ破  
 ル賊是レニ由テ敗散ス

黃憲ノ賢

東漢孝安帝ノ時汝南ノ太守王龔ナルモノアリ才ヲ好  
 ミ士ヲ愛ス袁閭ヲ以テ功曹ト爲ス郡人黃憲陳蕃等ヲ

引キ進ム憲世々貧賤父ハ牛醫タリ憲年十四潁川ノ苟  
 淑適マ之ト慎陽ノ逆旅ニ遇フ竦然トソ之ヲ異トシ曰  
 ク子ハ吾カ師表ナリト袁閻ヲ見テ曰ク子ノ國ニ顔子  
 アリ子之ヲ識レリヤ閻曰ク吾ガ黃叔度ヲ見タルカト  
 時ニ同郡ノ戴良ナルモノ才高クシテ倨傲ナリ而モ憲  
 ナ見ル毎ニ未タ嘗テ容ヲ正フセサルアラズ歸ルニ及  
 ヒ惘然トシテ失フアル如シ其母曰ク汝ハ復タ牛醫ノ  
 兒ヨリ來ルカト陳蕃等相謂ツテ曰ク時月ノ間モ黃生  
 ナ見サレハ鄙吝ノ萌シ復タ心ニ存スト太原ノ郭泰閻  
 ニ過キレハ宿セスシテ退ク黃憲ニ從フテハ日ヲ累ヌ

人以テ泰ニ問フ曰ク袁奉高ノ器ハ之テ汎濫ニ譬フ清  
 シト雖モ挹ミ易シ黃叔度ハ汪々タル一頃ノ波ノ如  
 シ之ヲ澄セモ清マズ之ヲ撓セモ濁ラス量ルヘカラズ  
 ト憲初メ孝廉ニ舉ケラル又公府ニ辟サル人其レニ仕  
 ナ勸ムルアリ暫ク京師ニ到リ即チ還ル年四十八ニシ  
 テ終ル

楊震ノ四知

楊震ナル者ハ關西ノ人ナリ時人之ヲ稱シテ曰ク關西  
 ノ孔子ハ楊伯起ト震生徒ヲ教授ス堂下ニ三鱣ヲ得タ  
 リ都講以爲ラク三公ノ象アリト取テ以テ進メテ曰ク

先生此レヨリ升ラント後ニ嘗テ郡ノ守トナル屬邑ノ  
 令金ヲ懷ロニシテ之ニ遺ルモノアリ曰ク暮夜知ルモ  
 ノナシト震曰ク天知ル地知ル子知ル我知ル何ソ知ル  
 一無シト謂ハント令慚チテ退ク東漢孝安帝ノ時三公  
 トナル時ニ宦者及ヒ上ノ乳母王聖事ヲ用ユ皆請託ア  
 リ震從ハス又數々近習ヲ以テ言ト爲ス近習怨テ共ニ  
 之ヲ搆フ策シテ印綬ヲ收ム遂ニ死ス葬ムルノ日名士  
 皆來リ會ス大鳥アリ高サ丈餘墓前ニ至リ俯仰シ流涕  
 シテ去ル

左雄ノ公直

東漢孝順帝ノ時尚書令左雄ナルモノアリ奏スラク郡  
 國ニ令シテ孝廉ヲ舉ケ年四十以上ヲ限ル諸生ノ章句  
 ニ通シ文吏ノ牋奏ヲ能クスルモノハ乃チ選ニ應スル  
 一ヲ得ル其ノ茂材異等アル顔淵子奇ノ如キハ年齡ニ  
 拘ラスト雄公直精明ニシテ能ク眞僞ヲ審覈シ志ヲ決  
 シテ之ヲ行フ嘗テ少年ヲ舉ゲテ至ルモノアリ雄之ヲ  
 詰テ曰ク顔回ハ一ヲ聞テ十ヲ知ル孝廉ハ一ヲ聞テ幾  
 バクヲ知ルヤト頃ラクシテ中外謬舉ニ坐セラレ黜免  
 セラル、モノ十餘人惟タ汝南ノ陳蕃潁川ノ李膺下邳  
 ノ陳球等十餘人ハ郎中ニ拜セララル一ヲ得タリ

張綱車輪ヲ埋ム

東漢孝順帝ノ時皇后ノ父梁商ヲ以テ大將軍ト爲ス商  
 死ス其子冀ヲ以テ大將軍ト爲ス冀ノ弟不疑ヲ河南ノ  
 尹ト爲ス不疑使者八人ヲ遣ハシ州郡ヲ分行セシム張  
 綱亦々遣中ニ在リ獨リ其車輪ヲ洛陽ノ都亭ニ埋メテ  
 曰ク豺狼道ニ當ル安ゾ狐狸ヲ問ハント綱冀ト不疑ノ  
 君ヲ無ミスルノ心十五事ヲ劾奏ス帝綱ガ言ノ直ナル  
 ナ知レトモ而カモ用ユル能ハス冀恨テ之レヲ中傷セ  
 ント欲ス時ニ廣陵ノ賊張嬰楊徐ノ間ニ寇ス十餘年  
 乃チ綱ヲ以テ廣陵ノ太守ト爲ス綱單車ニシテ徑チニ

嬰カ壘門ニ詣ル請テ與ニ相見テ之ヲ曉スニ大義ヲ以  
 テス嬰等萬餘人降ル綱壘ニ入テ宴ス綱之ヲ散遣シ其  
 之ク所ニ任ス南州晏然タリ綱郡ニアリ卒ス嬰等之レ  
 カ爲ニ服ヲ制シ喪ヲ行フ

蘇章ノ能政

東漢孝順帝ノ時蘇章ナルモノ冀州ノ刺史トナリ政ヲ  
 能クス故人ノ清河ノ太守トナルモノアリ章時ニ部ヲ  
 行ル爲メニ酒ヲ設ケ甚々歡ス守喜テ曰ク人皆一天ア  
 リ我レ獨リ二天アリト章曰ク今日蘇孺文故人ト飲ム  
 モノハ私恩ナリ明日冀州ノ刺史事ヲ案スルモノハ公

法ナリト遂ニ其姦賊ノ罪ヲ舉正ス

梁冀ノ跋扈

東漢孝順帝ノ時皇后ノ父梁商ヲ以テ大將軍ト爲ス商死ス其子冀ヲ以テ大將軍ト爲シ其弟不疑ヲ河南ノ尹ト爲ス皆外戚ノ親ヲ以テ驕横至ラサルナク己レニ佞スルモノハ之ヲ用ヒ己レニ逆フモノハ之ヲ殺シ威權人主ヲ傾ク孝質帝位ニ即ク時ニ年八歳ナリ少フシテ聰慧嘗テ朝會ニ因リ梁冀ヲ目シテ曰ク此レ跋扈將軍ナリト冀深ク之ヲ惡ミ左右ヲシテ餅中ニ於テ毒ヲ進メシム遂ニ崩ス時ニ李固杜喬清河王蒜ヲ立ント議ス

冀聽カズ蓋吾侯ヲ迎ヘ立ツ是レヲ孝桓帝ト爲ス而テ冀定策ノ功ヲ以テ封ヲ益シ又其子弟ヲ封シテ侯トナス桓帝延喜元年冀凶恣日ニ積ミ外戚ヲ以テ事ヲ用ユル者二十年一門前後七封侯三皇后六貴人二將軍威内外ニ行ハレ帝ハ手ヲ拱スルノミ常ニ之ヲ不平トス遂ニ宦者單超等ト謀リ兵ヲ勒シテ冀ノ印綬ヲ收ム冀自殺シ梁氏少長トナク皆棄市セララル

荀氏ノ八龍

東漢孝桓帝ノ時潁川ノ人荀淑ナルモノアリ少シテ博學ニシテ高行アリ李固李膺等皆ナ之ヲ師宗トス賢良

方正ニ擧ケラレ對策ス朗陵侯ノ相ニ補セララル事ニ莅  
 ミ明理ナリ稱シテ神君ト爲ス子八人アリ儉緝靖熹汪  
 爽肅勇並ヒニ名稱アリ時人之ヲ八龍ト謂フ爽字ハ慈  
 明幼ニシテ學ヲ好ム思ヒテ經書ニ耽ラシ慶吊ニ行カ  
 ス徵命ニ應セス潁川之カ語ヲ爲シテ曰ク荀氏ノ八龍  
 慈明無双ナリト居ル所ノ里舊ト西豪ト名ク縣令苑康  
 以爲ク昔シ高陽氏才子八人アリト更ニ其里ヲ命シテ  
 高陽里ト云フ同郡ノ陳寔淑ト名ヲ齊フス嘗テ淑ニ詣  
 ル寔ノ長子紀字ハ元方車ヲ御シ次子諶字ハ季方驂乘  
 ス孫ノ群字ハ長文尙ホ幼シ車中ニ抱カレ淑カ家ニ至

ル八龍更々迭ヒニ左右ニ侍ス淑カ孫或字ハ文若尙ホ  
 幼シ膝上ニ抱置ス大史帝ニ奏スラク德星見ハル五百  
 里ノ内賢人聚ルアラント

崔寔ノ政論

東漢孝桓帝ノ時詔シテ獨行ノ士ヲ擧シム涿郡ノ崔寔  
 公車門ニ至リ對策セズシテ退キ政論ヲ著ス其畧ニ曰  
 ク聖人ハ能ク世ト推シ移ル俗士ハ苦ミテ變ヲ知ラス  
 以爲ラク結繩ノ約ハ復々亂秦ノ緒ヲ治ムヘク干羽ノ  
 舞ハ以テ平城ノ圍ミヲ解クヘシト夫レ刑罰ハ亂ヲ治  
 ムルノ藥石ナリ德教ハ平ヲ興スノ梁肉ナリ德教ヲ以

テ殘ヲ除クハ是レ梁肉ヲ以テ疾ヲ治ムルナリ刑罰ヲ以テ平ヲ治ムルハ是レ藥石ヲ以テ供養スルナリ數世ヨリ以來政恩貸多シ馭其轡ヲ委テ馬其銜ヲ駘ク四牡横ニ奔リ皇路險傾ス方サニ將サニ勅ヲ排シ鞭ヲ韃シテ以テ之ヲ救ントス豈ニ和鑿ヲ鳴シ節奏ヲ清フスルニ暇アラシヤ昔シ文帝肉刑ヲ除クト雖凡右趾ヲ斬ルニ當スルモノハ棄市シ答ル、モノハ往々死ニ至ルモノアリ是レ文帝嚴ヲ以テ平ヲ致ス寬ヲ以テ平ヲ致スニアラサルナリ仲長統其書ヲ見テ曰ク凡ソ人主タルモノ宜シク一通ヲ寫シ坐側ニ置クヘシト

朱穆ノ剛直

東漢孝桓帝ノ時朱穆ナルモノ冀州ノ刺史トナル令長風ヲ望ミ印ヲ解テ去ル者數十人穆州ニ至ルニ及ヒ貪汚ヲ奏劾ス宦者父ヲ歸葬スルニ玉匣ヲ用ユルモノ有リ穆案驗シテ其棺ヲ剖テ之ヲ出ス上聞テ大ニ怒ル穆ヲ召シテ廷尉ニ詣ラシム太學生劉陶等數千人上書シテ穆ヲ訟ヘ曰ハク中官國柄ヲ竊ミ持チ手ニ王爵ヲ握リ口ニ天憲ヲ銜ム穆獨リ亢然トシテ顧ミス心ヲ竭シ憂ヲ懷キテ上ノ爲メニ深ク計ル臣願クハ穆カ罪ニ代ラント上之ヲ赦ス陶又上疏シテ穆及李膺ヲ以テ王室

ヲ輔ケント乞フ書奏ス帝省セス

徐穉姜肱ノ畧傳

徐穉字ハ孺子豫章ノ人ナリ陳蕃太守タルキ特ニ一榻ヲ設ケ以テ穉ヲ待ツ去レハ則チ之ヲ懸ク穉諸公ノ辟シニ應セス然レ其死ヲ聞ケハ輒チ笈ヲ負フテ赴キ吊ス常ニ豫メ一鷄ヲ炙キ酒ヲ以テ綿ヲ漬シ暴乾シテ鷄ヲ裹ミ徑チニ冢隧ノ外ニ到リ水ヲ以テ綿ヲ漬シ白茹ヲ以テ飯ニ藉キ鷄ヲ以テ前ニ置キ祭り畢リテ謁ヲ留メ喪主ヲ見スシテ行ル

姜肱ハ彭城ノ人ナリ二弟仲海季江ト俱ニ孝友ナリ常

ニ被ヲ共ニス嘗テ盜ニ遇フ兄弟死ヲ爭フ盜兩ナカラ之ヲ釋ス後チ穉肱徴サル皆辭シテ至ラス太尉黃瓚卒ス四方ノ名士葬ニ會スルモノ七千人穉至ル瓚ヲ進メ哀哭シテ去ル諸名士曰ク此レ必ラス南州ノ高士徐孺子ナラント陳留ノ茹容ヲシテ之ヲ追ハシム容之レニ國事ヲ問フ答ヘス太原ノ郭泰曰ク孺子國事ヲ答ヘス是レ其ノ愚ニハ及フヘカラサルナリト二人東漢孝桓帝ノ時陳蕃ノ薦ムル所トナル

郭泰ノ識鑑

郭泰ハ太原ノ人ナリ初メ洛陽ニ遊ヒ李膺ト友タリ膺



嘗テ郷里ニ歸ル送車數千兩膺惟ダ泰ト舟ヲ同フシテ  
 濟ル衆賓之ヲ望ムモノ神仙ノ如シト云フ容年四十餘  
 野ニ畊ス雨ニ遇フテ樹下ニ避ク衆皆箕居セリ容獨リ  
 危坐シテ愈々恭シ泰見テ之ヲ異トス因テ其家ニ宿ス  
 旦日容雞ヲ殺シ母ニ食ハシメ自ラ草蔬ヲ以テ客ト同  
 ク飯ス泰曰ク賢ナル哉乃チ吾カ友ナリト遂ニ勸メテ  
 學ハシム鉅鹿ノ孟敏ナルモノアリ甌ヲ荷フテ地ニ墮  
 ス顧ミスシテ去ル泰見テ之ヲ問フ曰ク甌已ニ破レタ  
 リ之ヲ視ルモ何ノ益アラント泰亦タ勸メテ學ハシム  
 自餘泰ノ獎進ニ因テ名ヲ成スモノ甚々衆シ陳留ノ仇

香ナルモノ蒲亭ノ長タリ民ニ陳元ナルモノアリ其母  
 元ノ不孝ヲ告ク香親ラ其家ニ到リ爲メニ人倫ヲ陳フ  
 感悟シテ卒イニ孝子トナル考城ノ令王奐香ヲ署シテ  
 主簿トナス謂テ曰ク陳元罰セスシテ之ヲ化ス鷹鷲ノ  
 志ヲ少ク無キヲ得ンヤ香曰ク以爲ラク鷹鷲ハ鸞鳳ニ  
 如カスト奐曰ク枳棘ハ鸞鳳ノ栖ム所ニアラス百里ハ  
 大賢ノ路ニアラスト乃チ香ニ資シテ大學ニ入ラシム  
 泰其房ニ就キテ之ヲ見ル起ツテ床下ニ拜シテ曰ク君  
 ハ泰ノ師ナリ泰ノ友ニ非ラサルナリト

楊劉及ヒ李膺ノ聲望

東漢孝桓帝ノ時黃璠ヨリ以來三公楊秉劉寵皆人望アリ寵嘗テ會稽ニ守タリ郡大ニ治マル其徵サル、ヤ五六ノ老叟アリ山谷ノ間ヨリ出テ人ゴトニ百錢ヲ齎ラシ寵ヲ送リテ曰ク明府車ヲ下リテヨリ以來狗夜吠ヘス民吏ヲ見ス今聞クマサニ棄テ去ラルヘシト故ニ自ラ扶ケテ奉送スト寵曰ク吾カ政何ソ能ク公ノ言ニ及ハンヤ父老ヲ勤苦セリト爲メニ人コトニ一大錢ヲ選ヒテ之ヲ受ク入テ司空トナル楊秉朝ニ立テ正直ナリ河南ノ尹トナリ嘗テ宦官ニ忤フヲ以テ罪ヲ得タリ後チ太尉トナリ以テ卒ス陳蕃秉ニ繼テ太尉タリ李膺ヲ

薦メ以テ司隸校尉トナス宦官之ヲ畏レ皆鞠躬シテ氣ヲ屏ケ休沐ニモ敢テ官省ヲ出テス桓帝其故ヲ問フ皆叩頭シテ泣テ曰ク李校尉ヲ畏ルト時ニ朝廷日ニ亂レ紀綱頽弛ス而テ膺獨リ風裁ヲ持シ聲名ヲ以テ自ラ尙フル士其容接ヲ被ムルモノアレハ名クテ登龍門ト爲スト云フ

黨人ノ獄

東漢孝桓帝ノ蠡吾侯タリシ時學ヲ甘陵ノ周福ニ受ク位ニ卽クニ及ヒテ擢テ尙書トナス時ニ同郡ノ房植ナルモノ名望アリ郷人謠フテ曰ク天下ノ規矩ハ房伯武

師タルニ因リテ印ヲ獲ルモノハ周仲進ト二家ノ賓客  
互ヒニ相ヒ譏揣シテ隙ヲ成ス是レニ由リテ甘陵南北  
ノ部アリ黨人ノ議此ヨリ始マル時ニ大學ノ諸生三万  
余人郭泰賈彪之レカ冠タリ陳蕃李膺ト更々相推重ス  
學中語ツテ曰ク天下ノ模楷ハ李元禮強禦ヲ畏レサル  
ハ陳仲舉ト是ニ於テ中外風ヲ承ケ競フテ臧否ヲ以テ  
相ヒ尙フ會マ南陽ノ太守成瑨ト太原ノ太守劉瓚ト大  
赦ノ後チニ於テ宦官ノ黨ヲ案殺ス徵シテ獄ニ下シ將  
ニ棄市セントス山陽ノ太守翟超ナルモノ張儉ヲ以テ  
督郵ト爲シ宦官ノ制ニ踰ユルノ冢宅ヲ破リ資財ヲ藉

没ス東海ノ相黃浮モ亦宦官ノ家屬ノ法ヲ犯スモノヲ  
收メテ之ヲ殺ス是ニ於テ宦官冤ヲ訟フ超浮並ヒニ罪  
ヲ得タリ陳蕃之レヲ爭フ桓帝聽カス宦官人ヲシテ上  
書セシメ李膺大學ノ遊士ヲ養ナヒ共ニ部黨ヲ爲シ朝  
廷ヲ誹訕シ風俗ヲ疑亂スト告ク帝震怒シ郡國ニ下シ  
テ黨人ヲ逮捕ス案三府ヲ經ル陳蕃卻ケテ敢テ署セス  
帝愈ヨ怒リ膺等ヲ北寺ノ獄ニ下ス辭杜蜜陳寔范滂等  
ノ二百餘人ニ連ル使者ノ追捕四モニ出ツ蕃又々極諫  
ス帝策シテ之ヲ免ス朝廷震慄シ敢テ復々黨人ノ爲メ  
ニ言フモノナシ賈彪曰ク吾レ西行セスンハ大難解ケ

スト乃チ西ノ方洛陽ニ入り皇后ノ父竇武ニ説キ上疏  
シテ之ヲ解ク膺等ノ獄辭又々多ク宦官ノ子弟ヲ引ク  
宦官懼レテ帝ニ白フシテ黨人二百餘人ヲ赦シ田里ニ  
歸ラシメ名ヲ三府ニ書シ終身ヲ禁錮ス孝靈帝立ツニ  
及ンテ竇太后朝ニ臨ミ竇武ヲ以テ大將軍ト爲シ陳蕃  
ヲ大傅ト爲シ天下ノ名賢ヲ徵ス李膺杜密皆朝ニ列セ  
リ天下大平ヲ想望ス蕃武共ニ宦官曹節王甫等ヲ誅モ  
ント議ス謀コト泄ル宦者夜所親ノモノヲ召シ血ヲ歃  
ツテ共ニ盟ヒ詔板ヲ爲リ王甫ヲ黃門令ニ拜シ其黨ヲ  
シテ節ヲ持シ武等ヲ收メ誣ユルニ大逆ヲ以テシ先ツ

陳蕃ヲ執ヘテ之ヲ殺ス武自殺ス首ヲ都亭ニ梟シ太后  
ヲ南宮ニ遷ス李膺初メ禁錮セララルト雖モ士大夫皆  
其道ヲ高トシ朝廷ヲ汚穢トス更々相標榜シテ三君八  
俊八及八厨ノ稱號ヲ爲ル陳竇事ヲ用ユルニ及ンテ復  
々膺等ヲ舉拔ス陳竇死シ膺等復々廢錮セララル曹節有  
司ヲ諷シ諸口ノ鈞黨ヲ奏セシム膺詔獄ニ繫カレ拷死  
ス黨人死スルモノ百人其死徒廢錮セララル、モノ又六  
七百人郭泰私カニ痛ンテ曰ク詩ニ云ク人ノコ、ニ亡  
ブル邦國殄瘁スト漢室滅セン但々未々烏ノ爰ニ止マ  
ルヲ瞻ルニ誰ノ屋ニオイテスルヲ知ラサル耳ト泰好